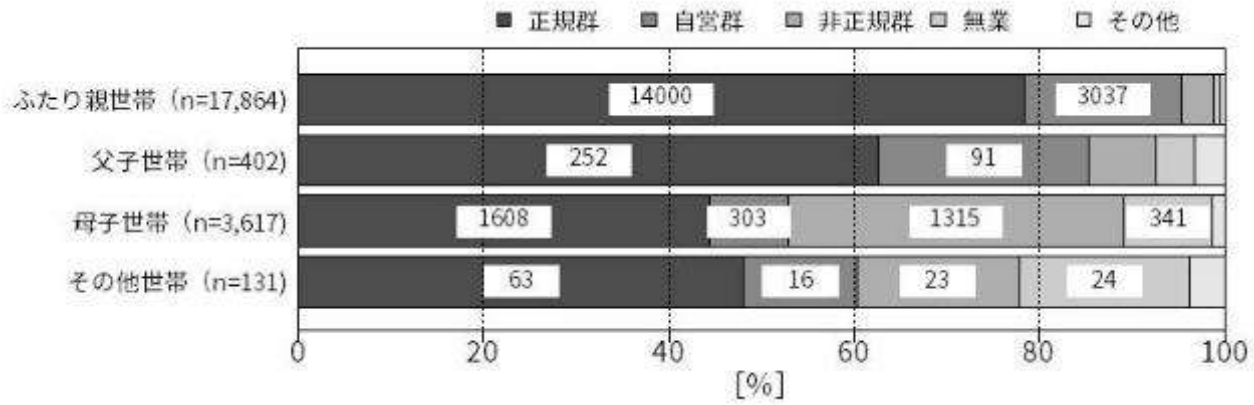
世帯構成別に見た、就労状況（保護者票　就労状況）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東淀川区＞

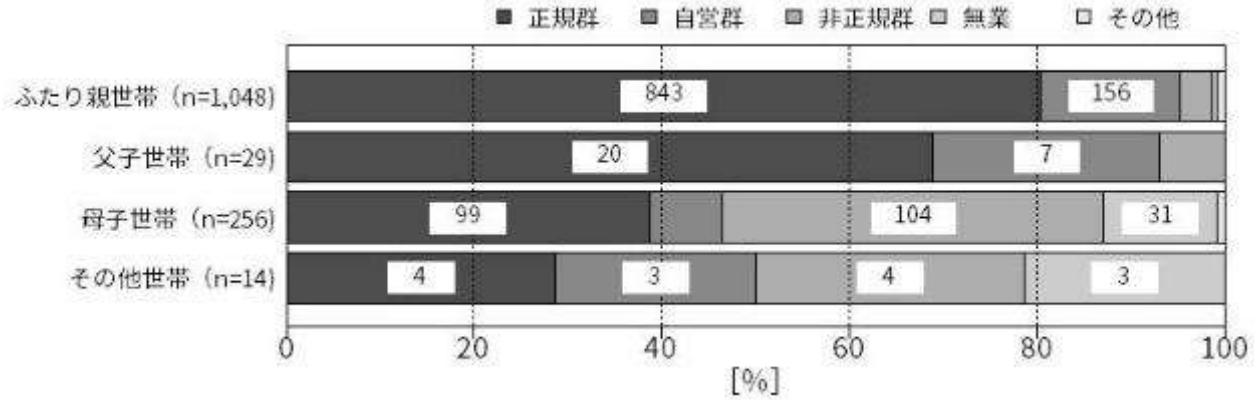
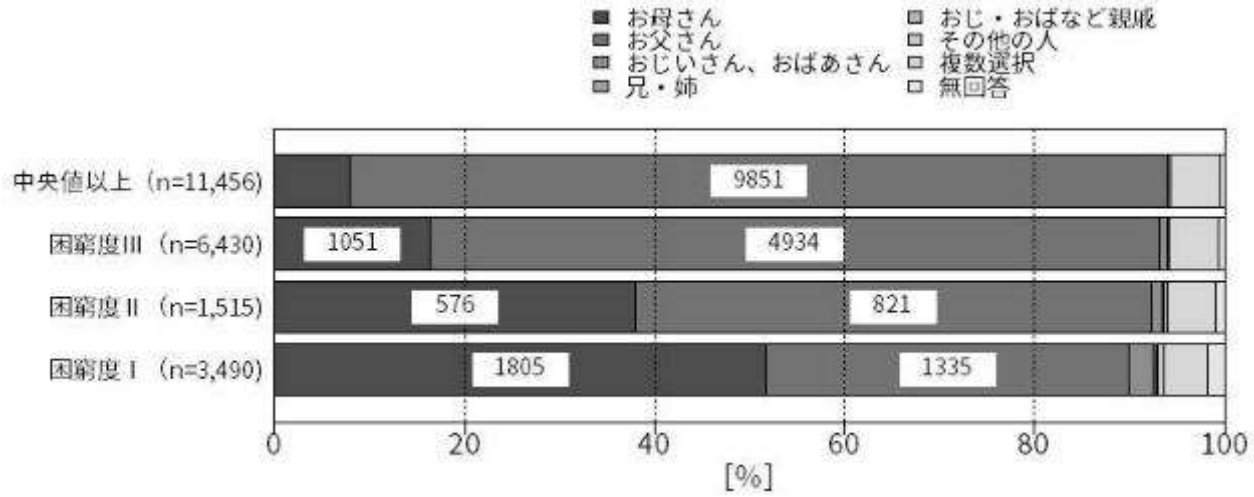


図 177.　世帯構成別に見た、就労状況

世帯構成別に就労状況を見ると、「ふたり親世帯」では「正規群」の割合が 80.4%であったが、「父子世帯」では 69%、「母子世帯」では 38.7%であった。「非正規群」は、「父子世帯」では 6.9%、「母子世帯」では 40.6%となっている。

困窮度別に見た、生計の支えとなる人（保護者票　問 30(2)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東淀川区＞

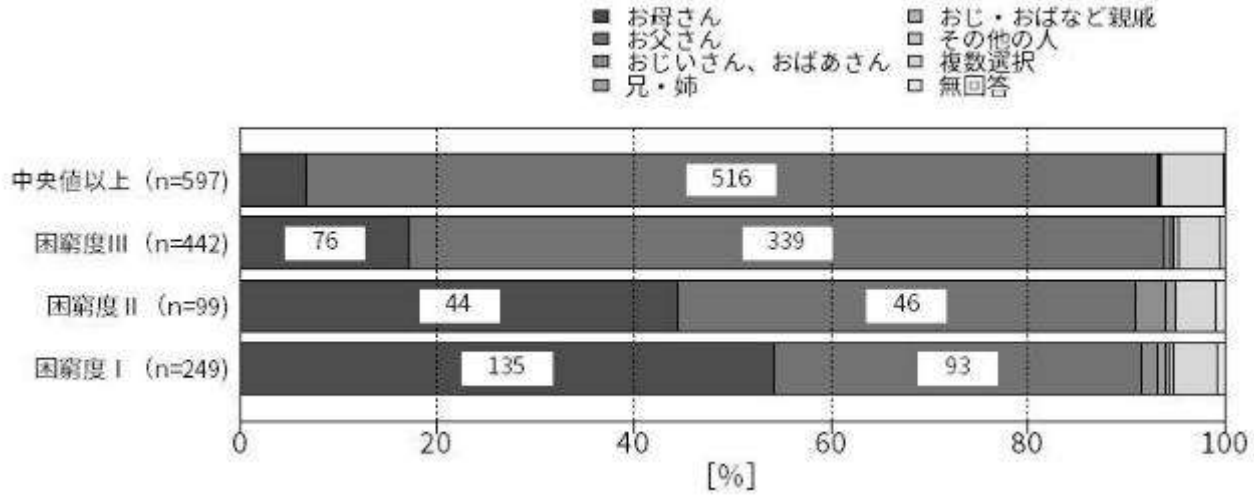
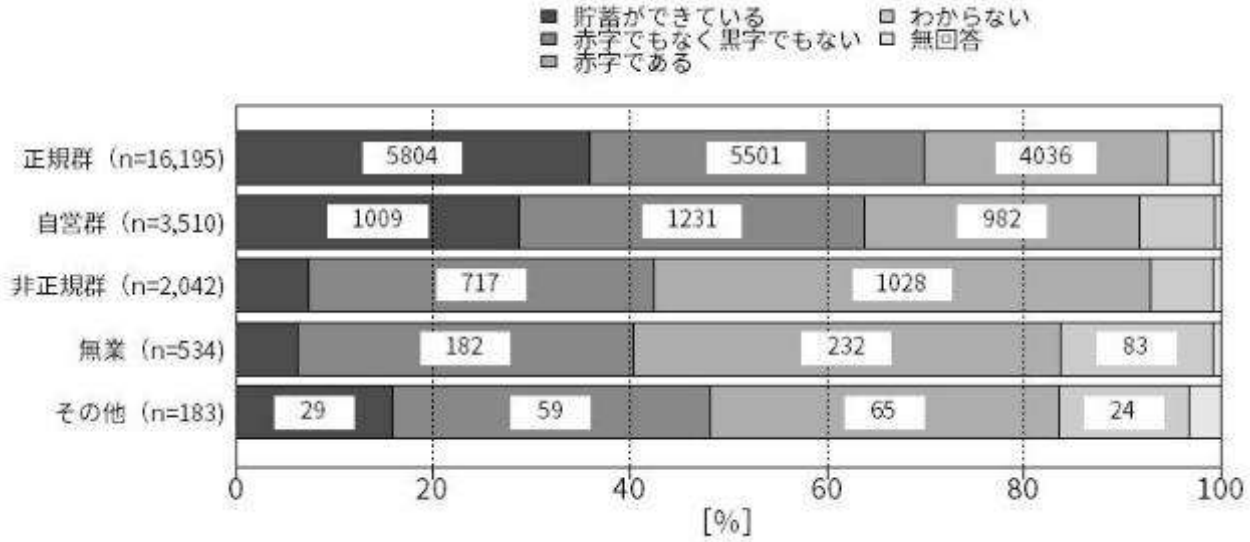


図 178.　困窮度別に見た、生計の支えとなる人

困窮度別に生計の支えとなる人を見ると、中央値以上群では「お父さん」という回答が 86.4%であった。困窮度が高まるにつれ、「お母さん」という回答が多くなる。困窮度Ⅱ群では「お母さん」という回答は 44.4%、困窮度Ⅰ群では 54.2%であった。

就労状況別に見た、家計状況（保護者票　問 6(1)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東淀川区＞

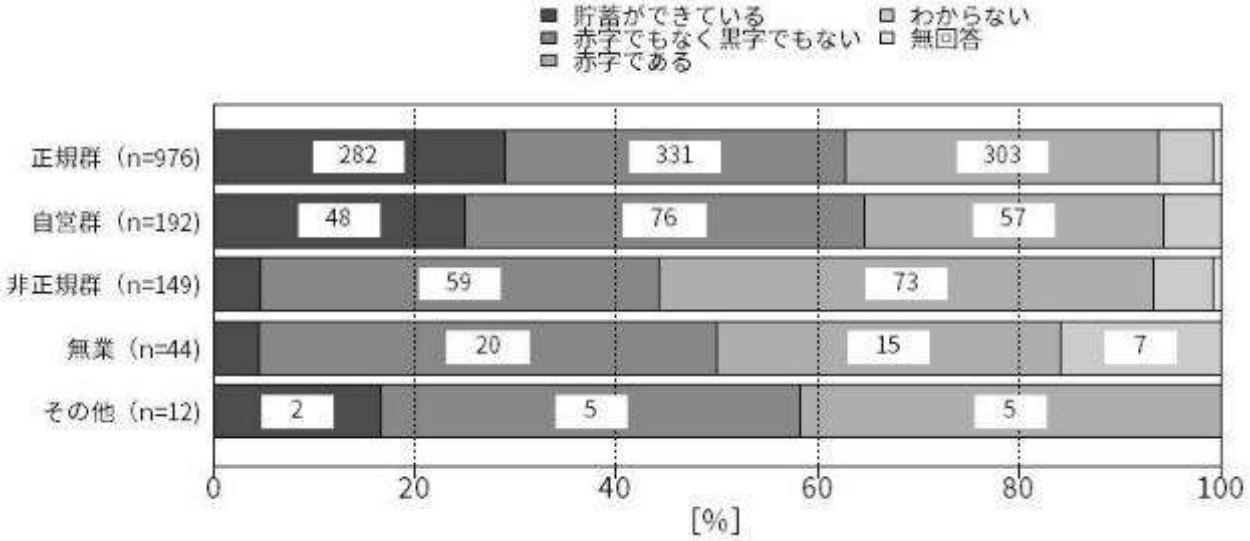


図 179. 就労状況別に見た、家計状況

就労状況別に家計状況を見ると、「正規群」・「自営群」では貯蓄ができている割合がそれぞれ、28.9%、25.0%であった。「非正規群」では「赤字である」と回答した人が 49.0%である。「赤字でもなく黒字でもない」群に大きな差は見られない。

＜雇用に関する考察＞

本調査からは、雇用形態が所得階層の分布に影響を与えていることが明らかになった。中央値以上の群では87.3%が正規雇用であるのに対して、困窮度Ⅰの群ではその割合が半分以下の35.3%であった。正規雇用であるにもかかわらず、困窮度Ⅰの群に該当する者がいるという点については、留意する必要があるだろう。

困窮度と学歴の関係についても、困窮度が高い群ほど、学歴が低いという傾向が見られた。母親が大卒である割合が、中央値以上の群では19.8%であったのに対し、困窮度Ⅰの群では5.2%にとどまっている。中卒、高校中退の割合を比較してみると中央値以上の群では、それぞれ1.3%、1.5%であったのに対し、困窮度Ⅰの群では7.6%、9.6%であった。同様の項目を父親でも見てみると、中央値以上の群では大卒が 35.8%、中卒が 1.7%、高校中退が 3.0%であったのに対し、困窮度Ⅰの群ではそれぞれ6.0%、9.2%、5.6%と母親と同様の傾向が見られた。なお、学歴が高い群ほど正規雇用の割合が高い結果となっている。

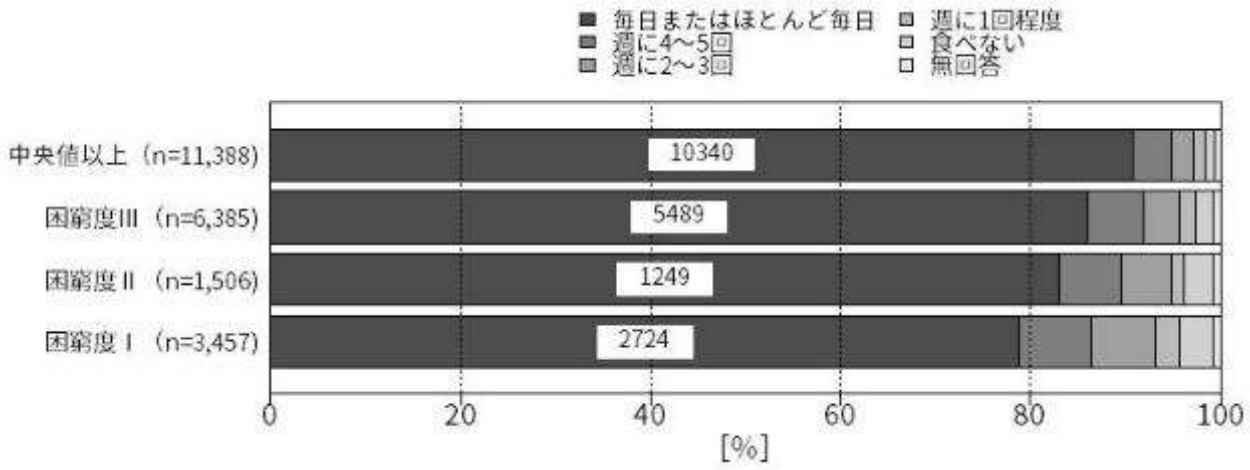
世帯構成と就労状況の関係ではふたり親世帯と比較して、母子世帯では正規雇用の割合が低く、非正規雇用の割合が40.6%と高くなっていた。主たる生計維持者が母親である場合、困窮度Ⅰの群に該当する世帯が多く54.2%であった。困窮度が深刻な群において、母子世帯の占める割合が高いことが示されている。

貯蓄状態の格差も見られた。正規雇用の世帯の28.9%は貯蓄ができていると回答したのに対し、非正規の群では49.0%が赤字であると回答した。

３－３．健康

困窮度別に見た、朝食の頻度（子ども票　問 5(1)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東淀川区＞

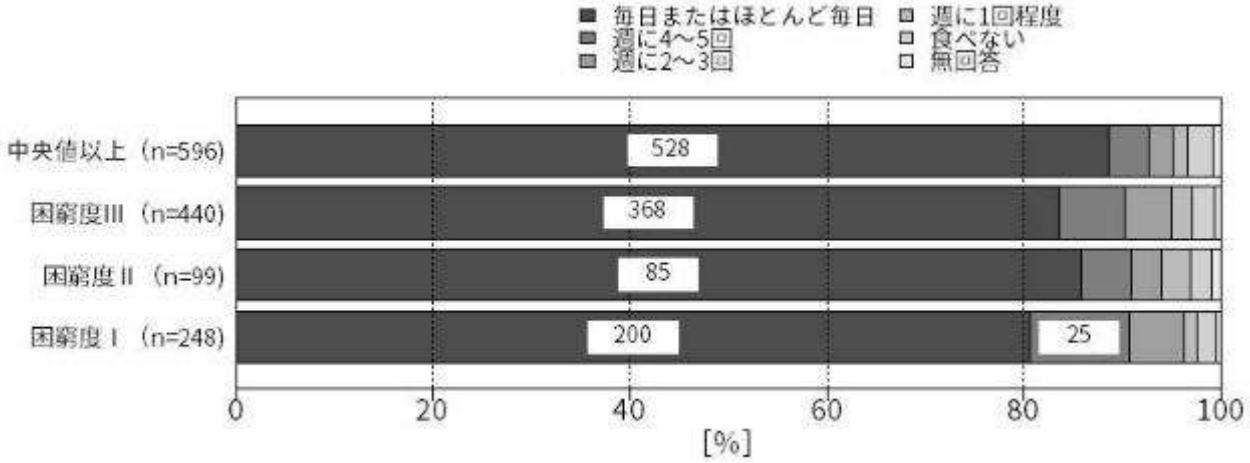
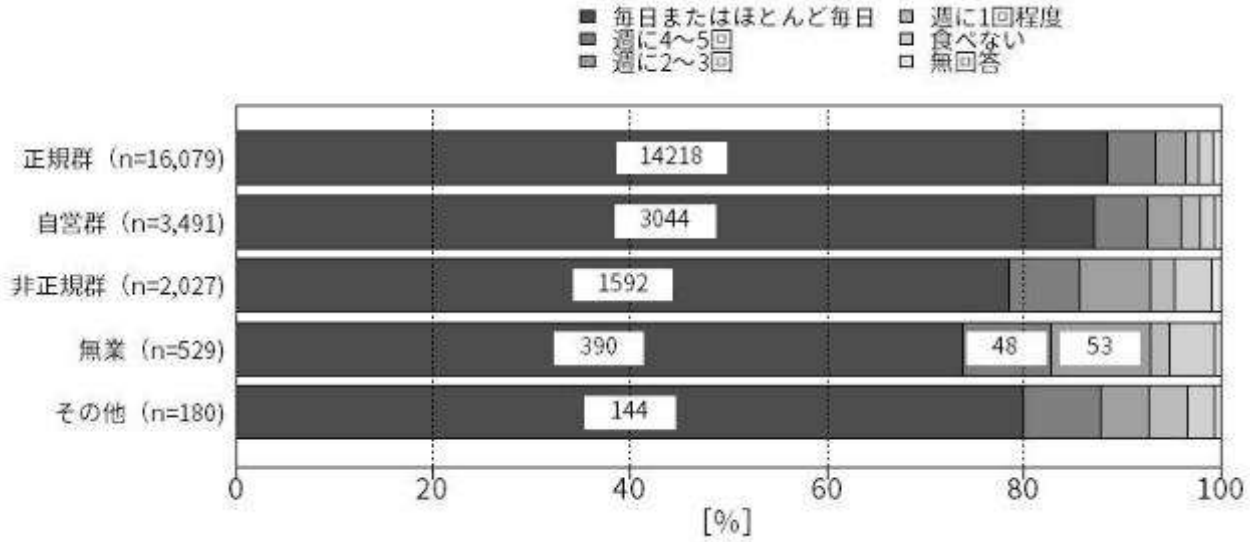


図 180．困窮度別に見た、朝食の頻度

困窮度別に朝食の頻度を見ると、困窮度が高くなるにしたがって、「毎日またはほとんど毎日」朝食を食べる頻度が減る傾向が見られた。困窮度 I 群では、18.9%が「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていないと回答した。

就労状況別に見た、朝食の頻度（子ども票　問5(1)）

＜大阪市24区＞



＜大阪市東淀川区＞

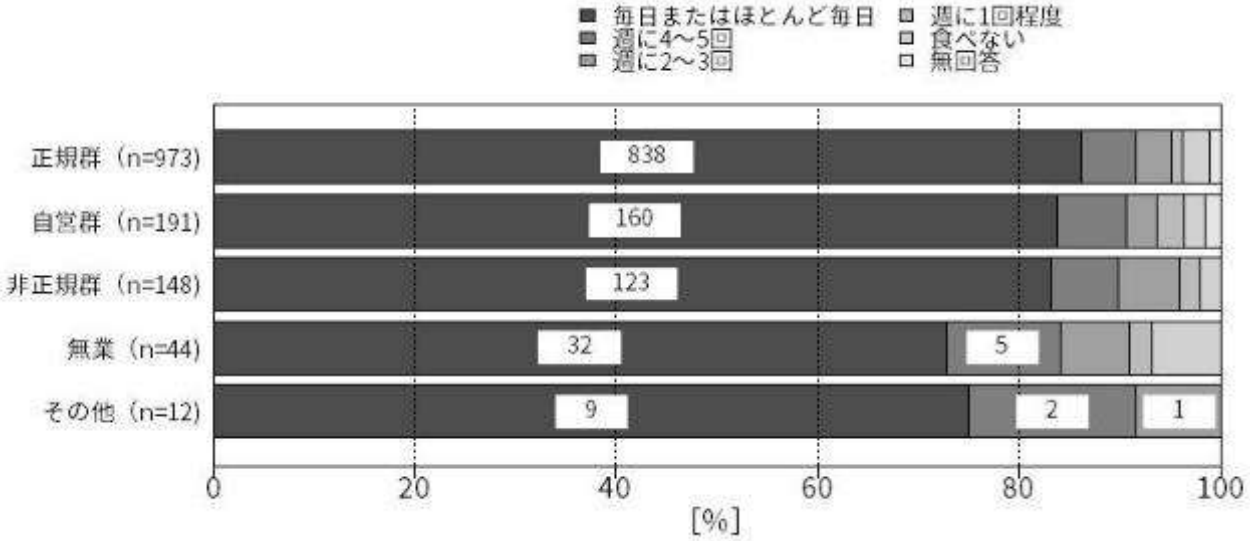
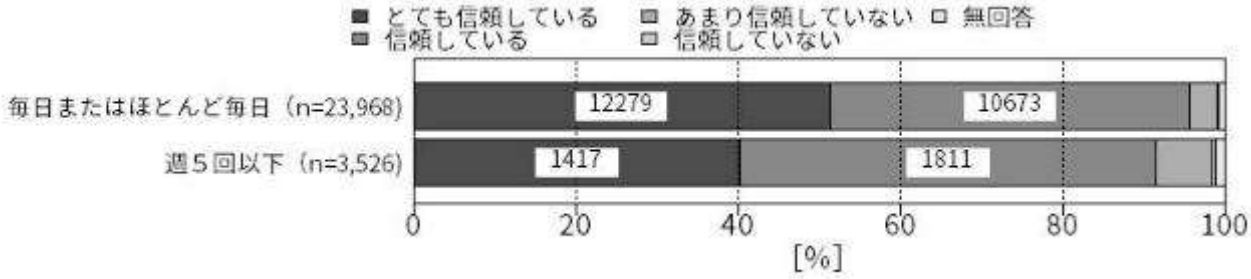


図 181．就労状況別に見た、朝食の頻度

就労状況別に朝食の頻度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとる割合は、「正規群」で86.1%、「自営群」で83.8%、「非正規群」で83.1%、「無業」で72.7%、「その他」で75.0%であった。

朝食の頻度別に見た、 保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）
（子ども票　問 5(1) × 保護者票　問 14(1)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東淀川区＞

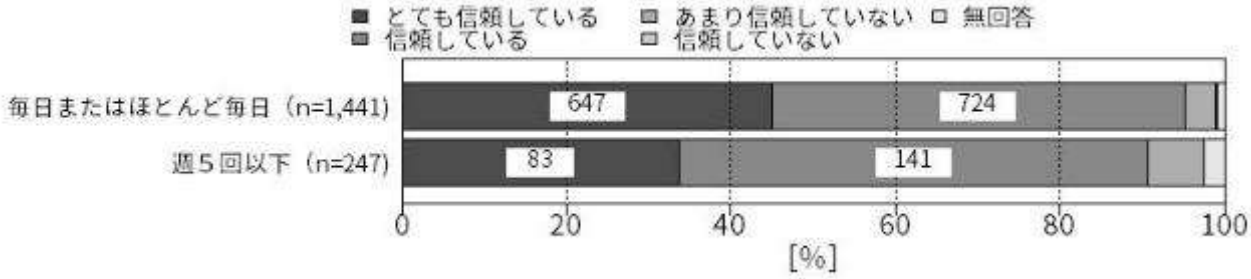
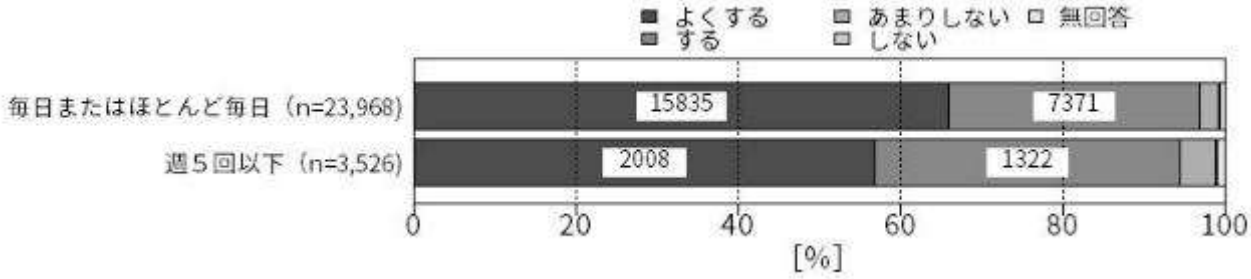


図 182. 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり（子どもへの信頼度）を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、子どもを「とても信頼している」との回答が 44.9%であったのに対し、「週 5 回以下」では、「とても信頼している」と回答した人は 33.6%であった。

朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）
（子ども票　問 5(1) × 保護者票　問 14(2)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東淀川区＞

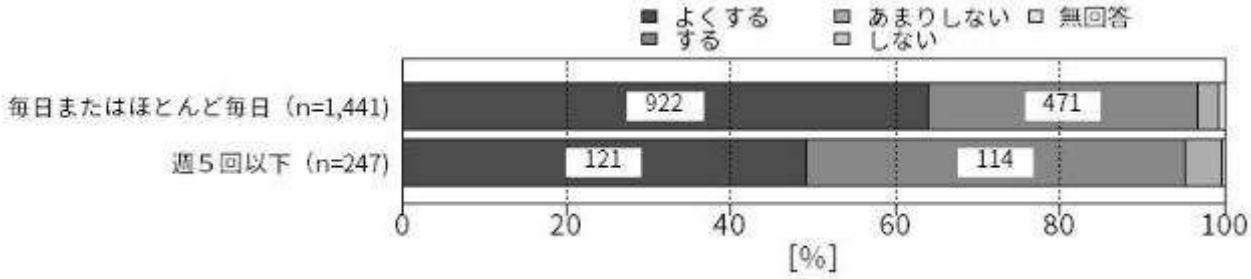
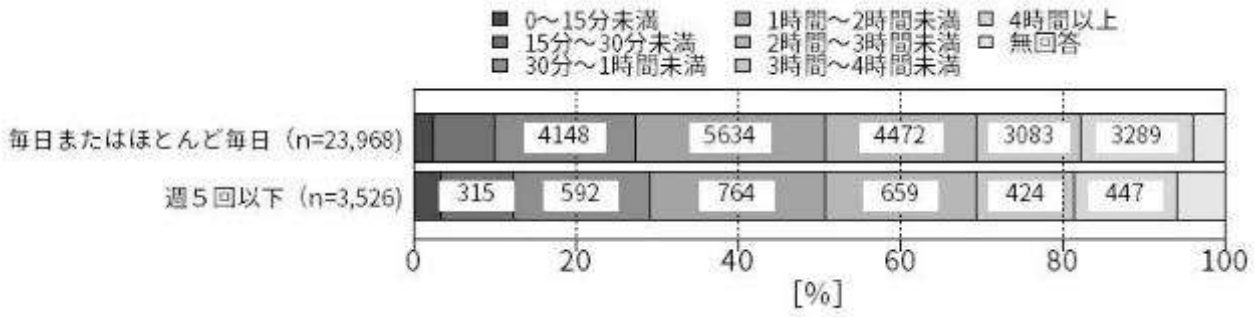


図 183. 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと会話）

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり（子どもと会話）を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、子どもと「よく会話をする」との回答が 64.0%であり、「週 5 回以下」では、「よく会話をする」と回答した人は 49.0%であった。

朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））
（子ども票　問 5(1) × 保護者票　問 14(3)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東淀川区＞

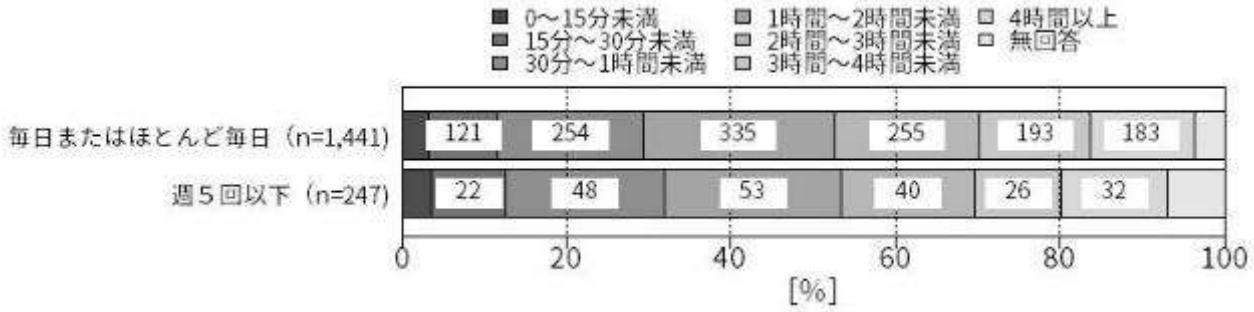
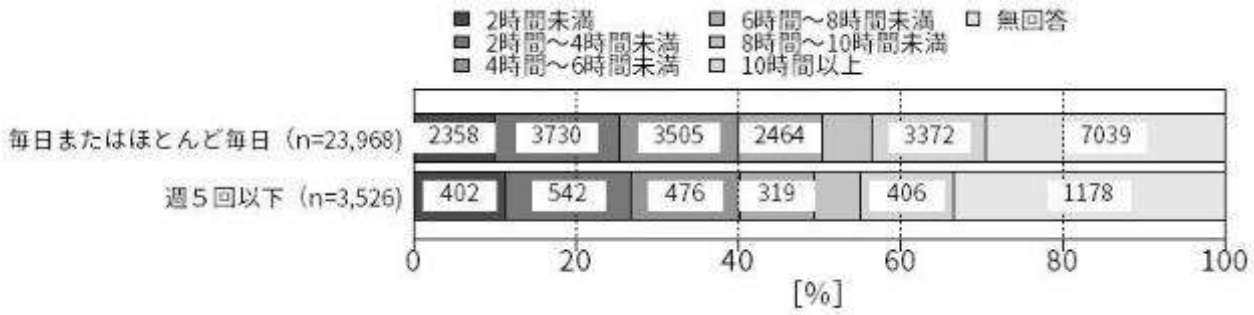


図 184. 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり
（子どもと一緒にいる時間（平日））

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（平日））を見ると、大きな差は見られなかった。

朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））
（子ども票　問 5(1) × 保護者票　問 14(3)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東淀川区＞

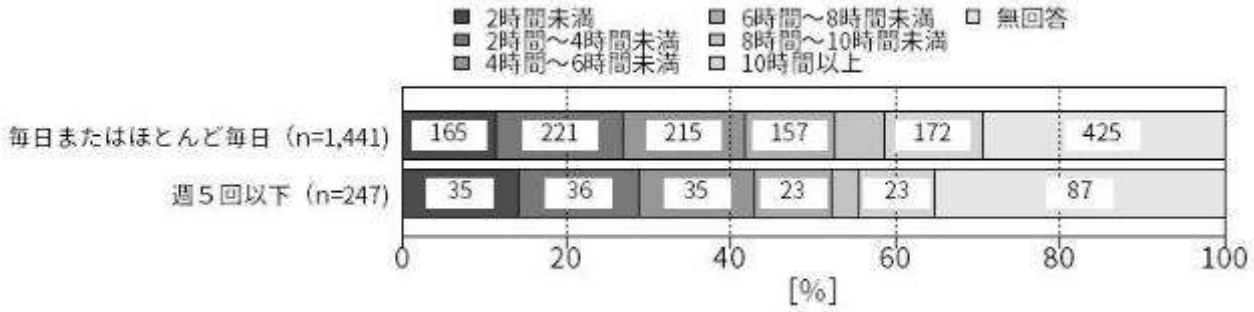
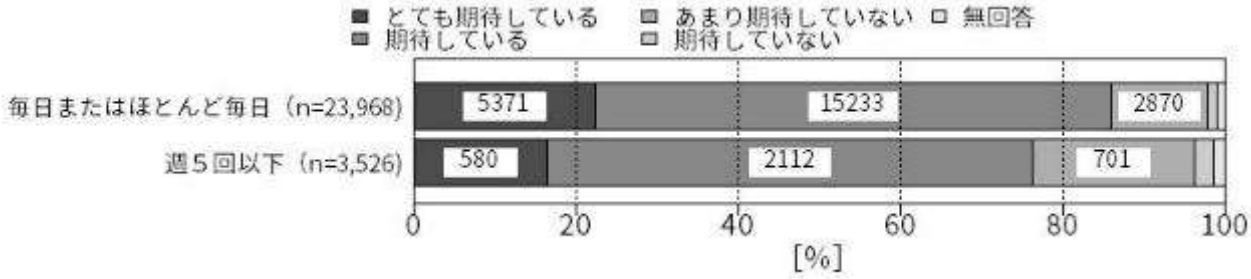


図 185. 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり
（子どもと一緒にいる時間（休日））

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり（子どもと一緒にいる時間（休日））を見ると、「週５回以下」群では「2 時間未満」「2 時間～4 時間未満」の割合がやや高く、合計 28.8%となった。

朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）
（子ども票　問 5(1) × 保護者票　問 14(4)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東淀川区＞

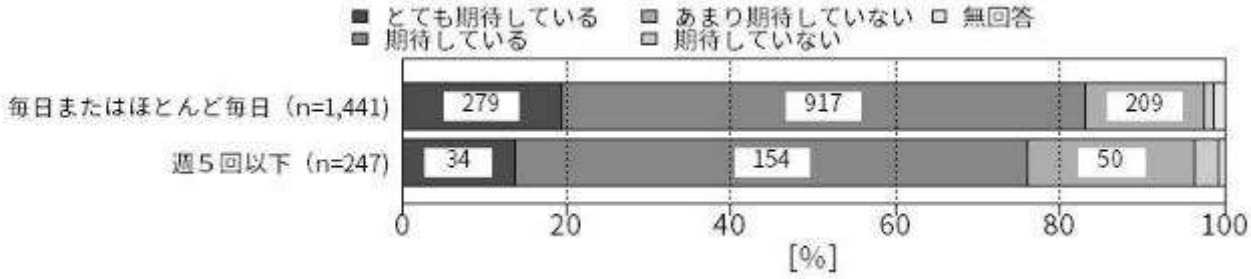


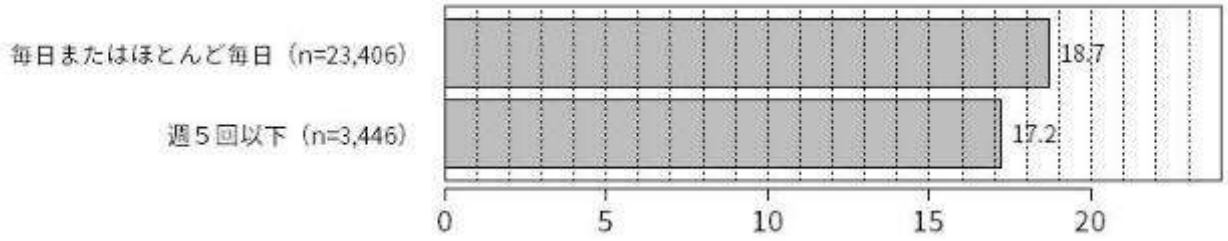
図 186. 朝食の頻度別に見た、保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり（子どもへの将来の期待）を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっている人では、「とても期待している」「期待している」をあわせて、83.0%であったのに対して、「週 5 回以下」の人では、「とても期待している」「期待している」と回答した人をあわせて 76.1%であった。

朝食の頻度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー
（子ども票　問 5(1) × 子ども票　問 26(1)～(6)）

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東淀川区＞

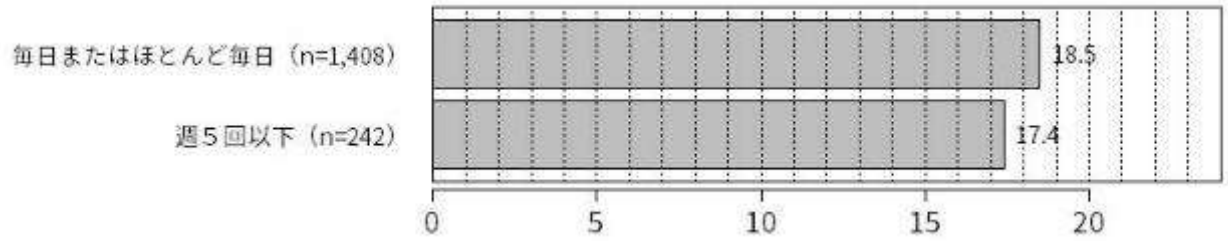
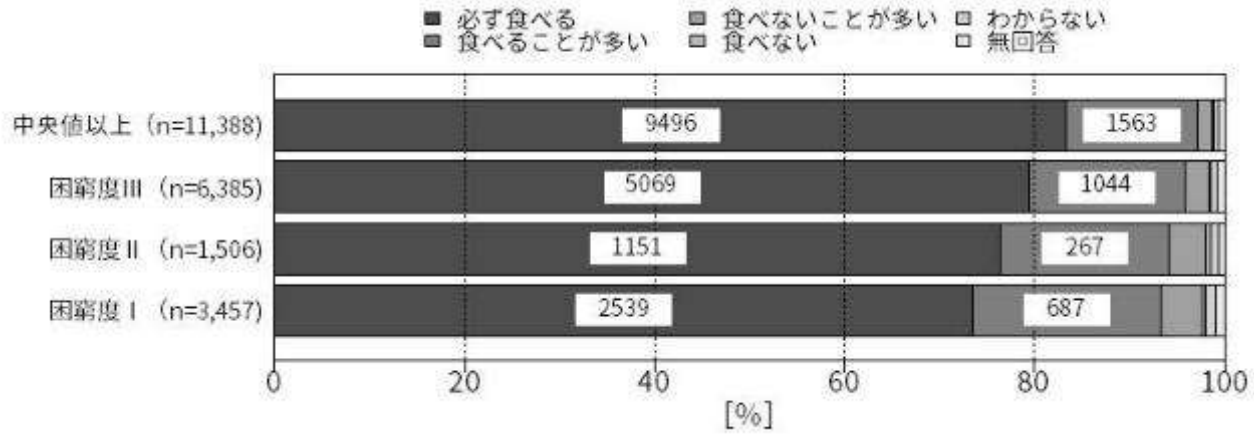


図 187. 朝食の頻度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

朝食の頻度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、18.5 点であったのに対して、「週 5 回以下」では、17.4 点であった。

困窮度別に見た、昼食の頻度（子ども票　問 7）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東淀川区＞

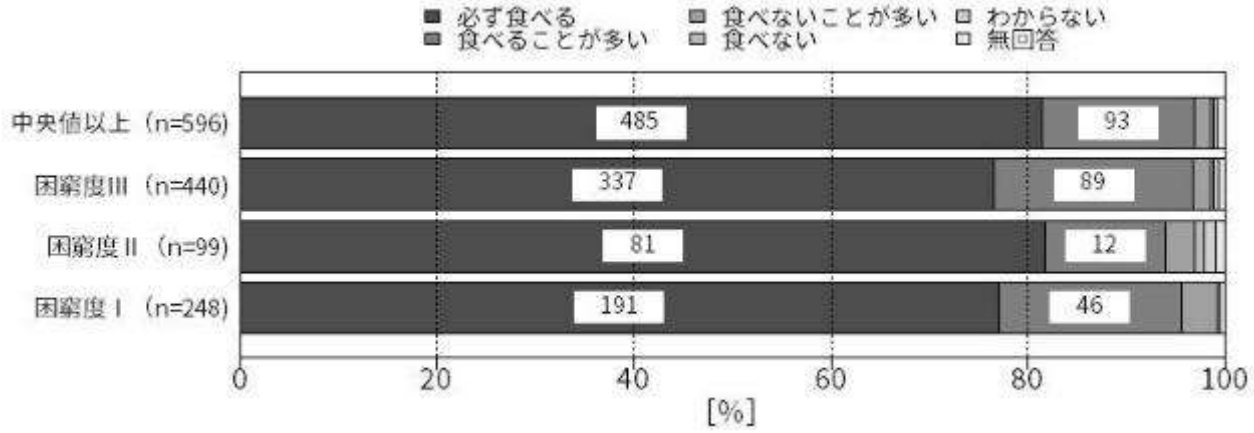
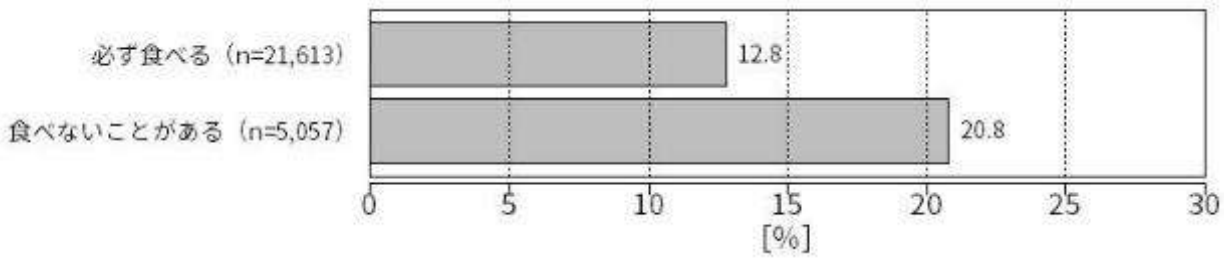


図 188.　困窮度別に見た、昼食の頻度

中央値以上群では、昼食を「必ず食べる」が 81.4%であったのに対し、困窮度Ⅱ群では 81.8%、困窮度Ⅰ群では 77.0%であった。

昼食の頻度別に見た、相談相手のいない割合（子ども票　問 7 × 子ども票　問 22）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東淀川区＞

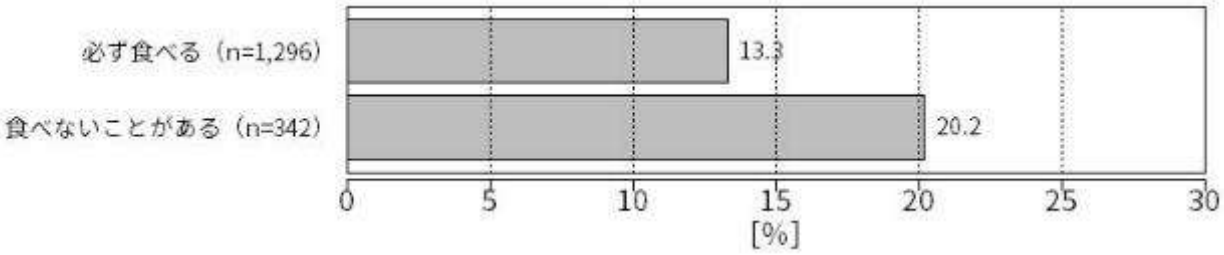


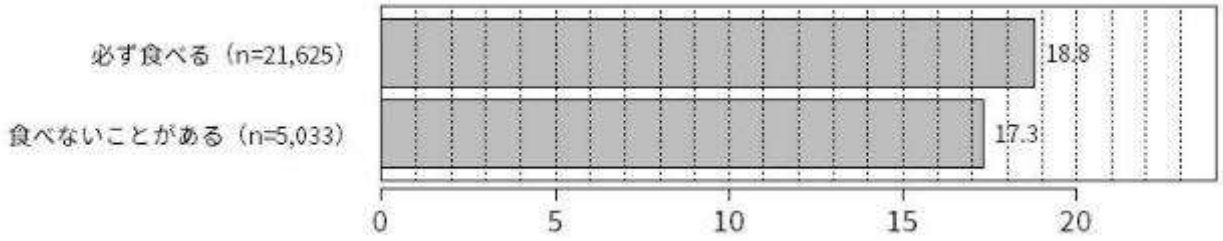
図 189．昼食の頻度別に見た、相談相手のいない割合

昼食を食べない群では、「相談しない」と答えた割合が 20.2%であった。

昼食の頻度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー
（子ども票　問 7 × 子ども票　問 26(1)～(6)）

※子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）については図 148 上の説明参照。

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東淀川区＞

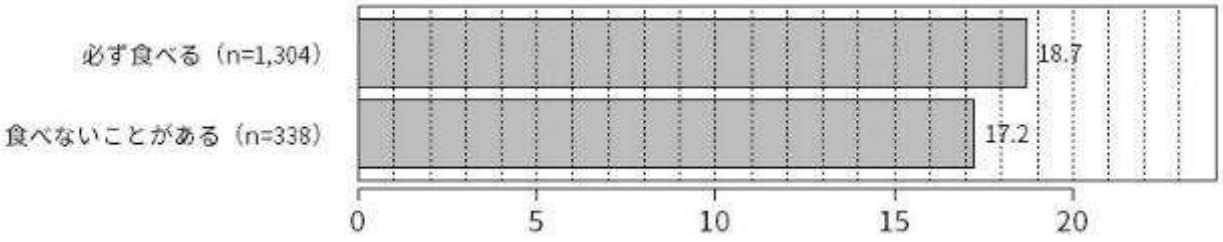
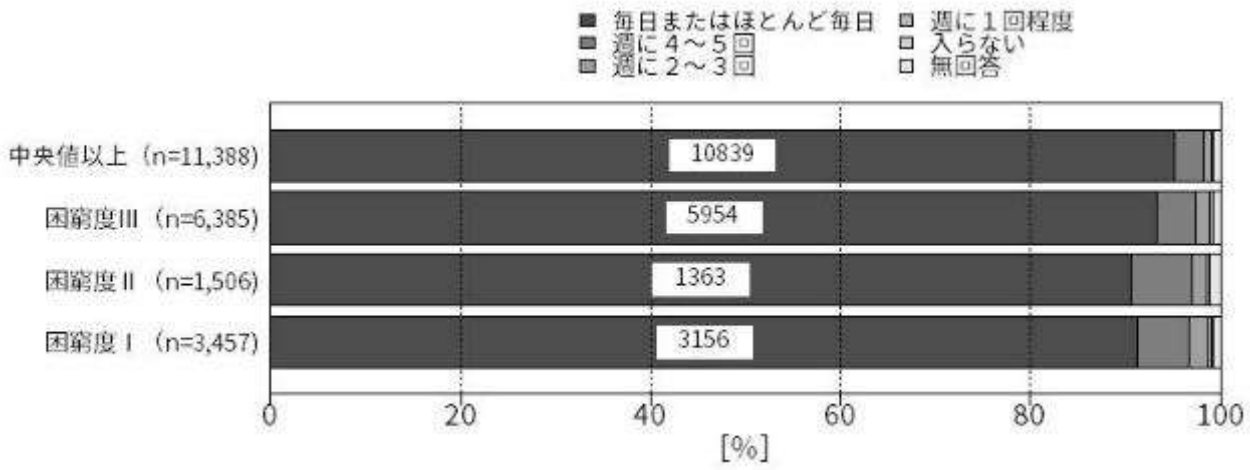


図 190. 昼食の頻度別に見た、子どものセルフ・エフィカシー

休日の昼食の頻度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「必ず食べる」と回答した人の得点が 18.7 点であったのに対して、「食べないことがある」と回答した人は 17.2 点であった。

困窮度別に見た、入浴頻度（子ども票　問 8）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東淀川区＞

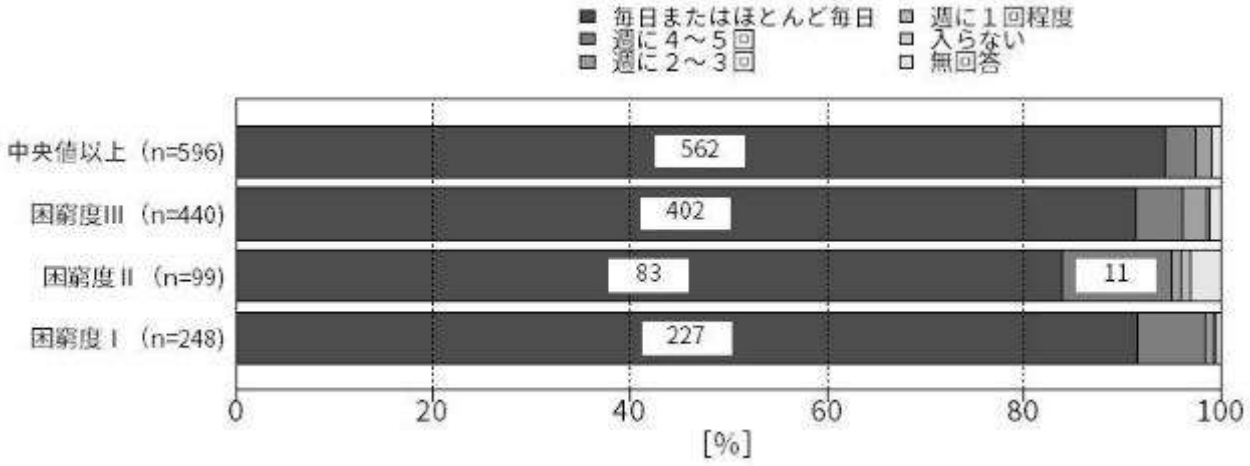
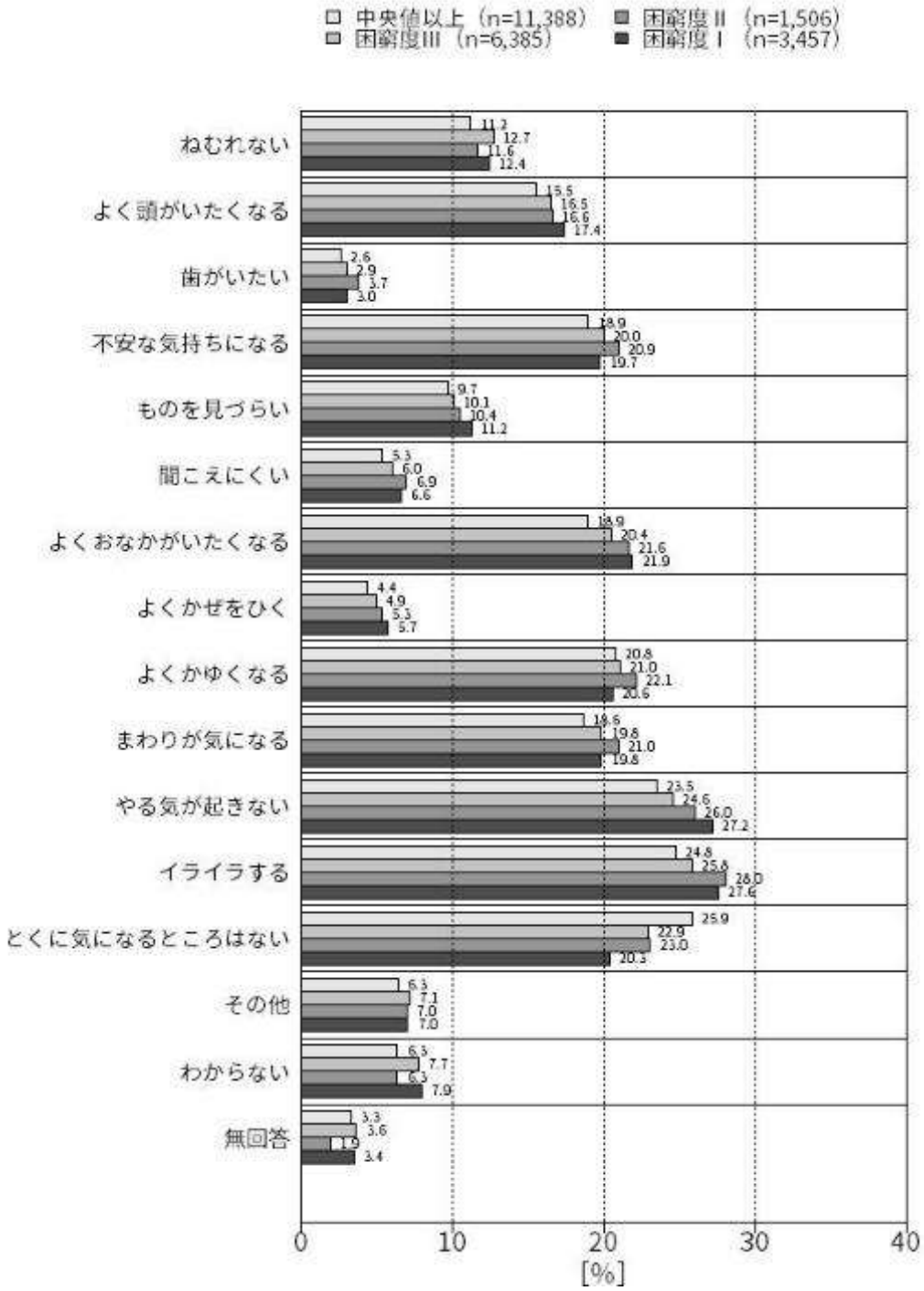


図 191．困窮度別に見た、入浴頻度

困窮度別に入浴頻度を見ると、「毎日またはほとんど毎日」と回答する割合は中央値以上群では 94.3％、困窮度Ⅰ群では 91.5％であった。

困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること（子ども票　問 24）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東淀川区＞

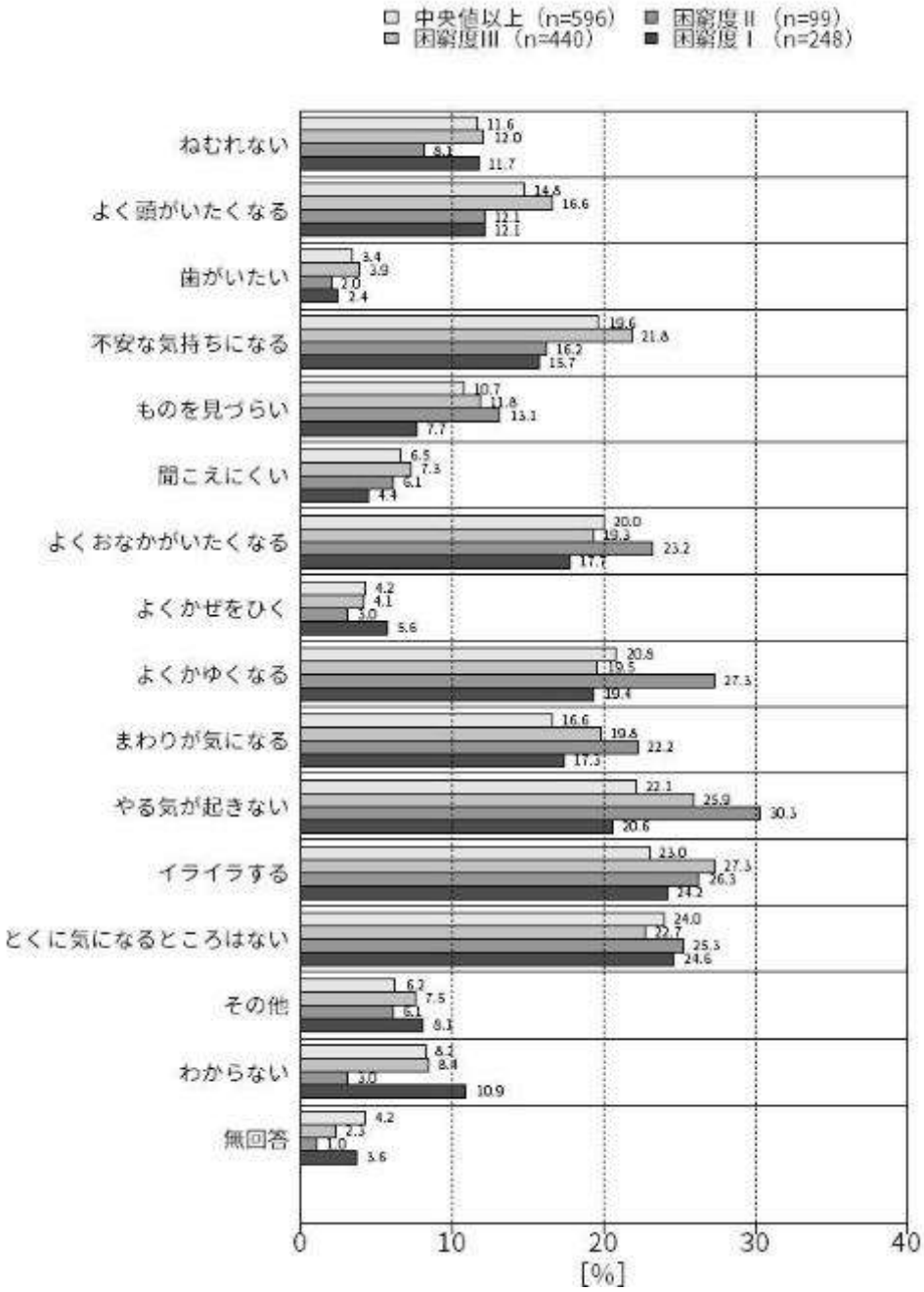
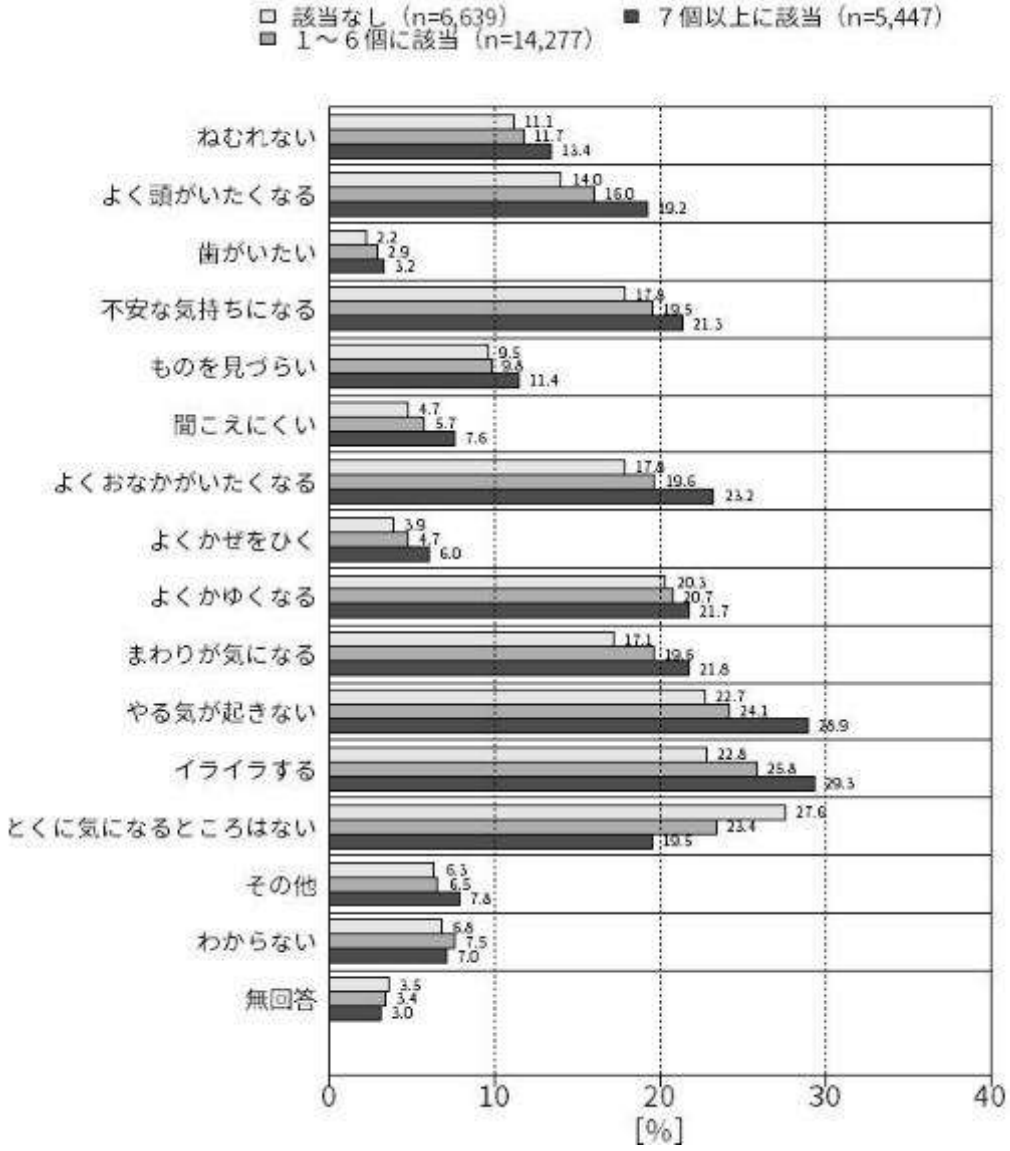


図 192. 困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること

困窮度別に自分の体や気持ちで気になること見ると、中央値以上群と困窮度Ⅰ群間で差が大きい項目に着目しながら、困窮度Ⅰ群の数値を挙げると、特に高いものは見られなかった。

経済的な理由による経験該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること
（保護者票　問 7 × 子ども票　問 24）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東淀川区＞

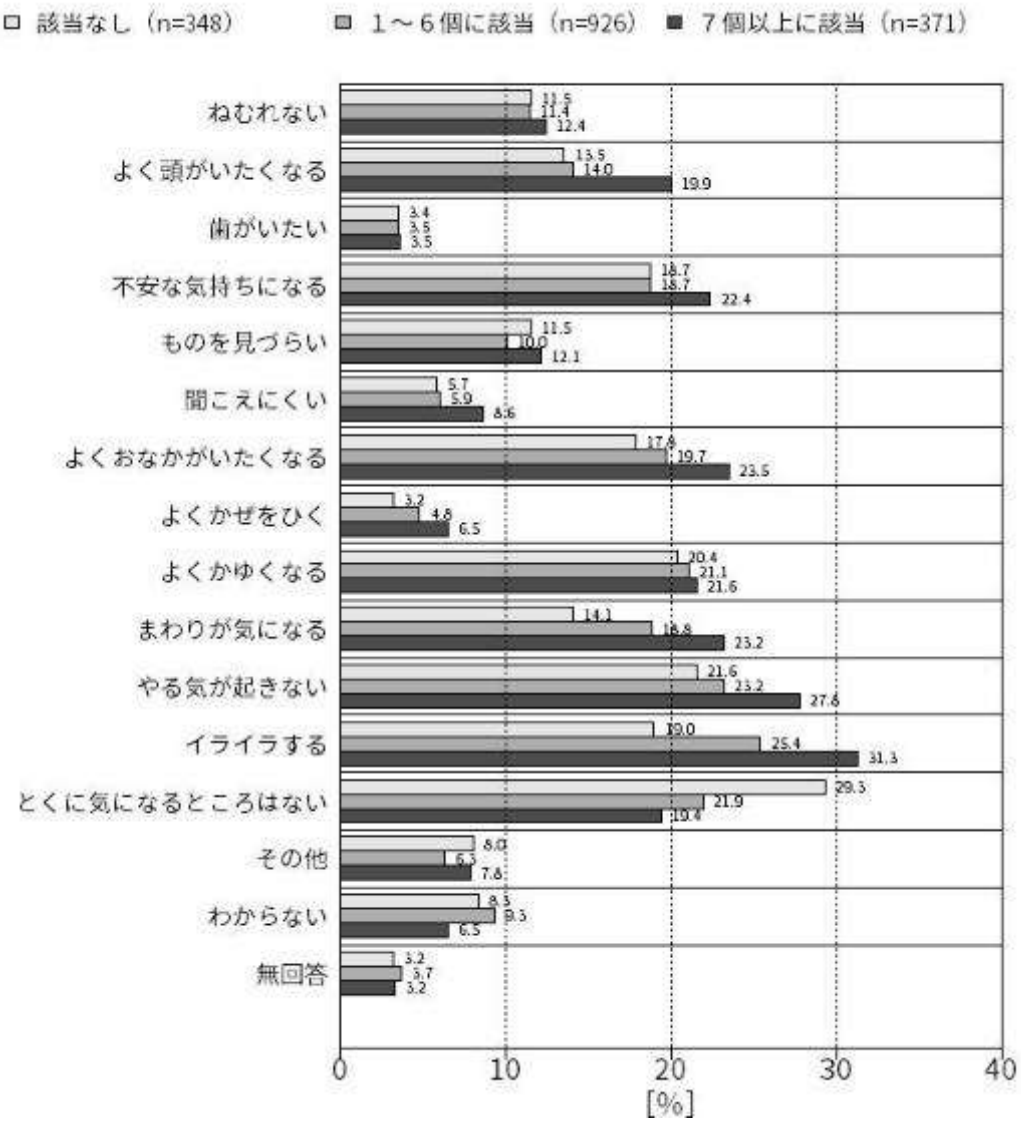
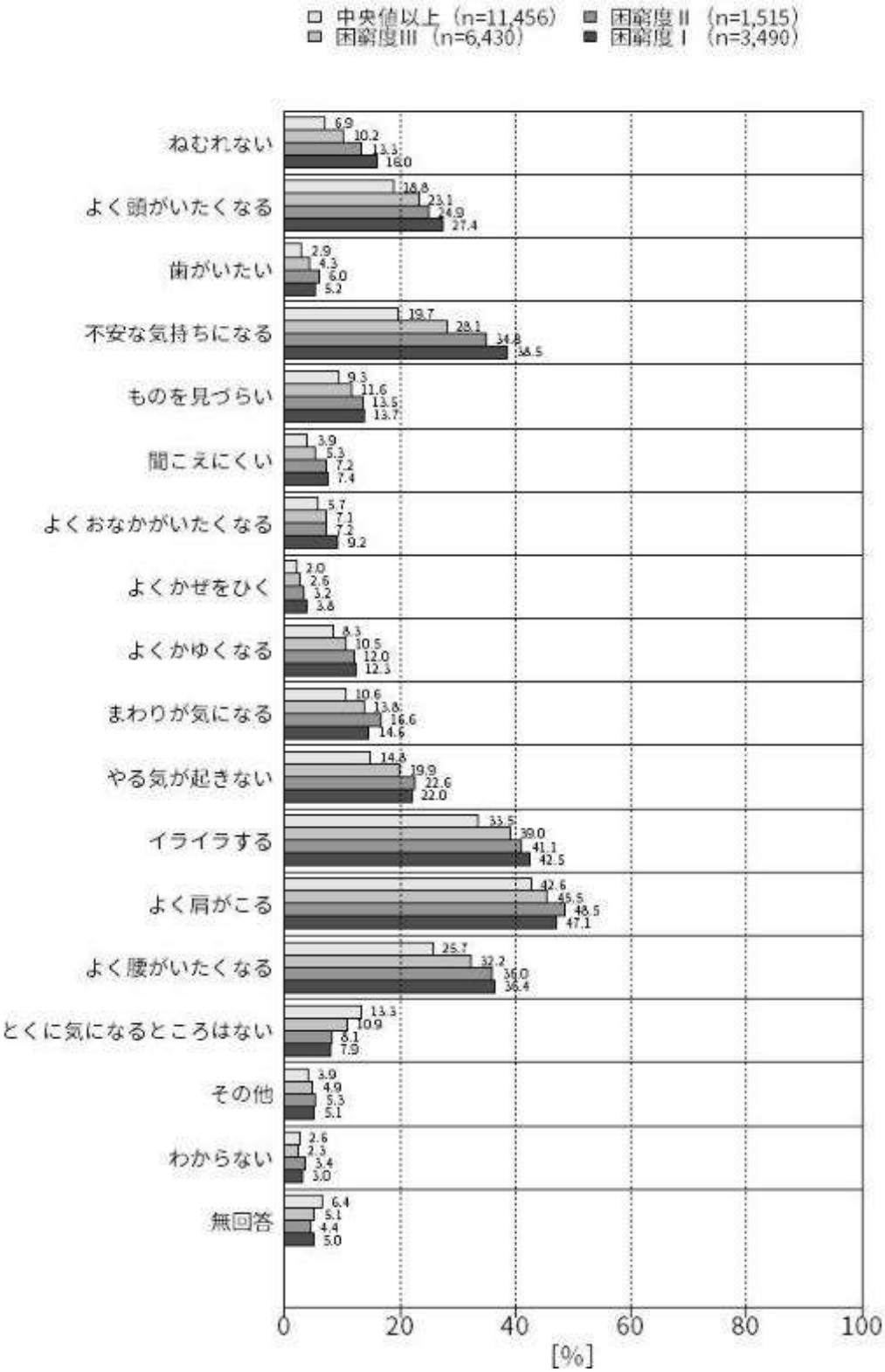


図 193. 経済的な理由による経験該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること

経済的な理由による経験の該当数別に自分の体や気持ちで気になることを見ると、「該当なし」と「7個以上に該当」と回答した人との差が大きい項目に着目しながら、「7個以上該当」群の数値を挙げると、「よくかぜをひく」6.5%（「該当なし」に対し2倍）、「イライラする」31.3%（1.6倍）、「まわりが気になる」23.2%（1.6倍）となっている。

困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること（保護者票　問 26）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東淀川区＞

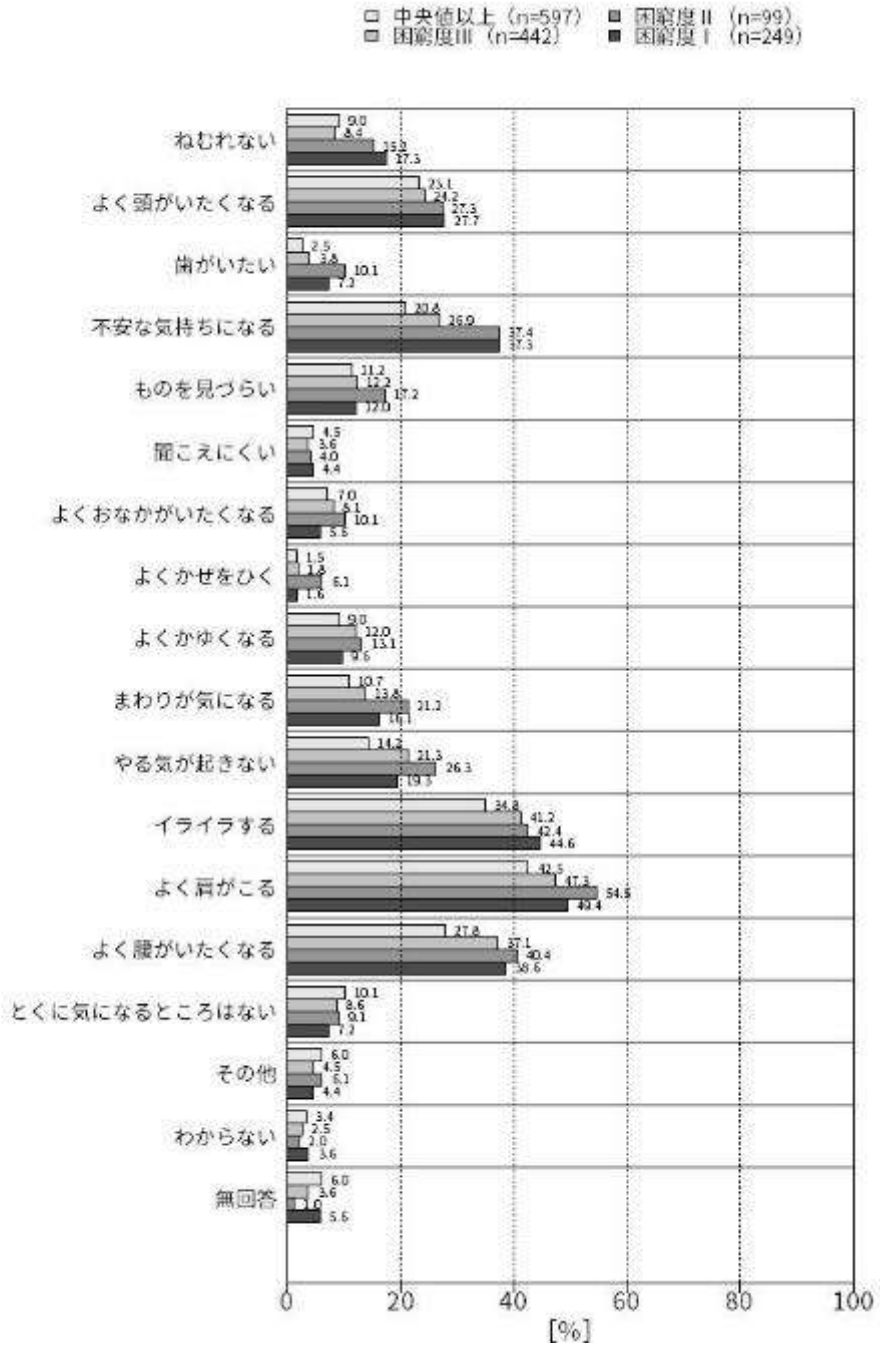
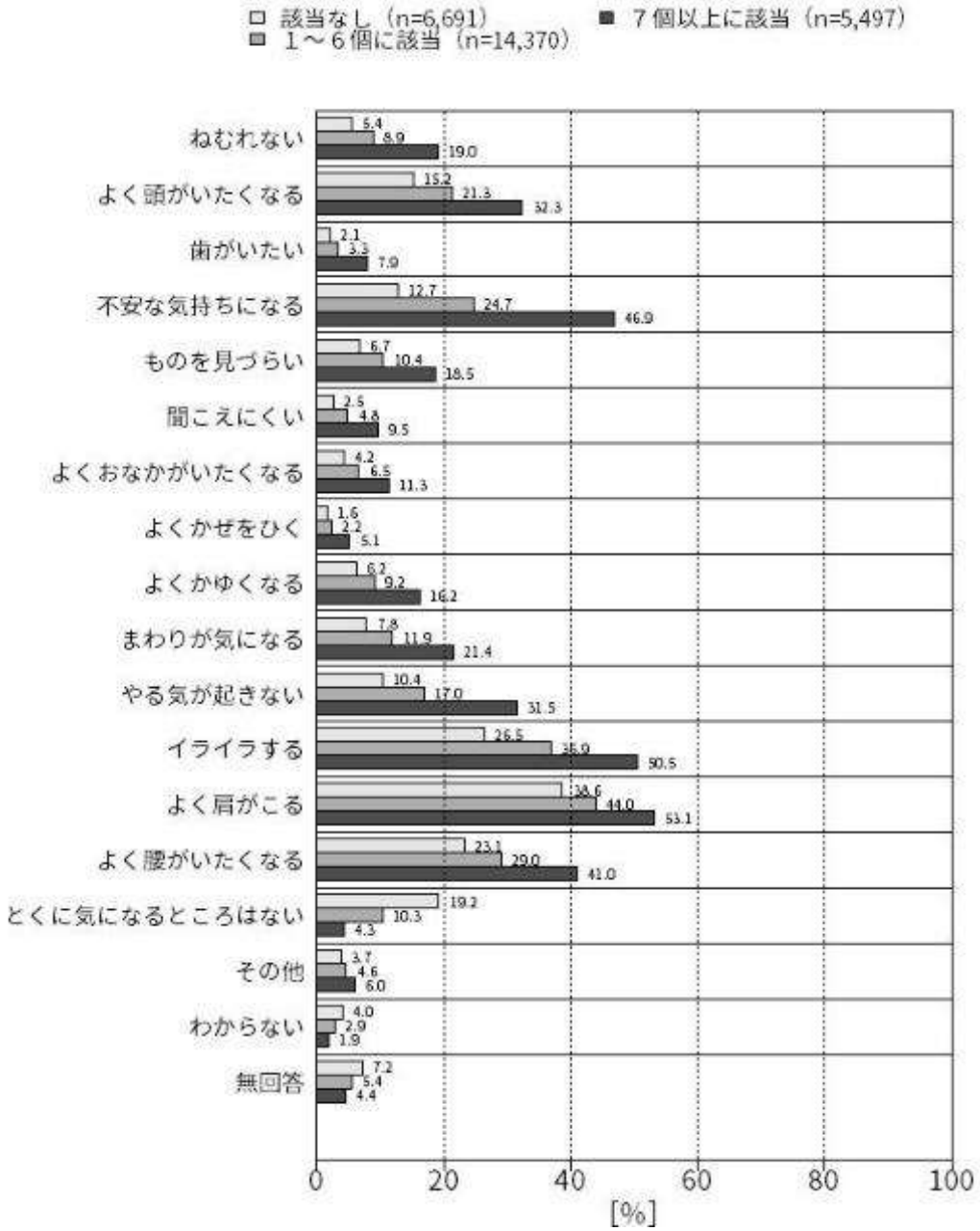


図 194. 困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること

困窮度別に自分の体や気持ちで気になること（保護者）を見ると、多くの項目において、困窮度が高まるにつれ、自分の体や気持ちで気になることのそれぞれの項目が高くなっている。特に困窮度Ⅰ群に着目して、中央値以上群との差が大きい順に挙げると、「歯がいたい」7.2%（中央値以上群に対して、2.9 倍、「ねむれない」17.3%（1.9 倍）、「不安な気持ちになる」37.3%（1.8 倍）となっている。つづいて、「まわりが気になる」16.1%（1.5 倍）という影響もみられた。

経済的な理由による経験該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること
（保護者票　問 7 × 保護者票　問 26）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東淀川区＞

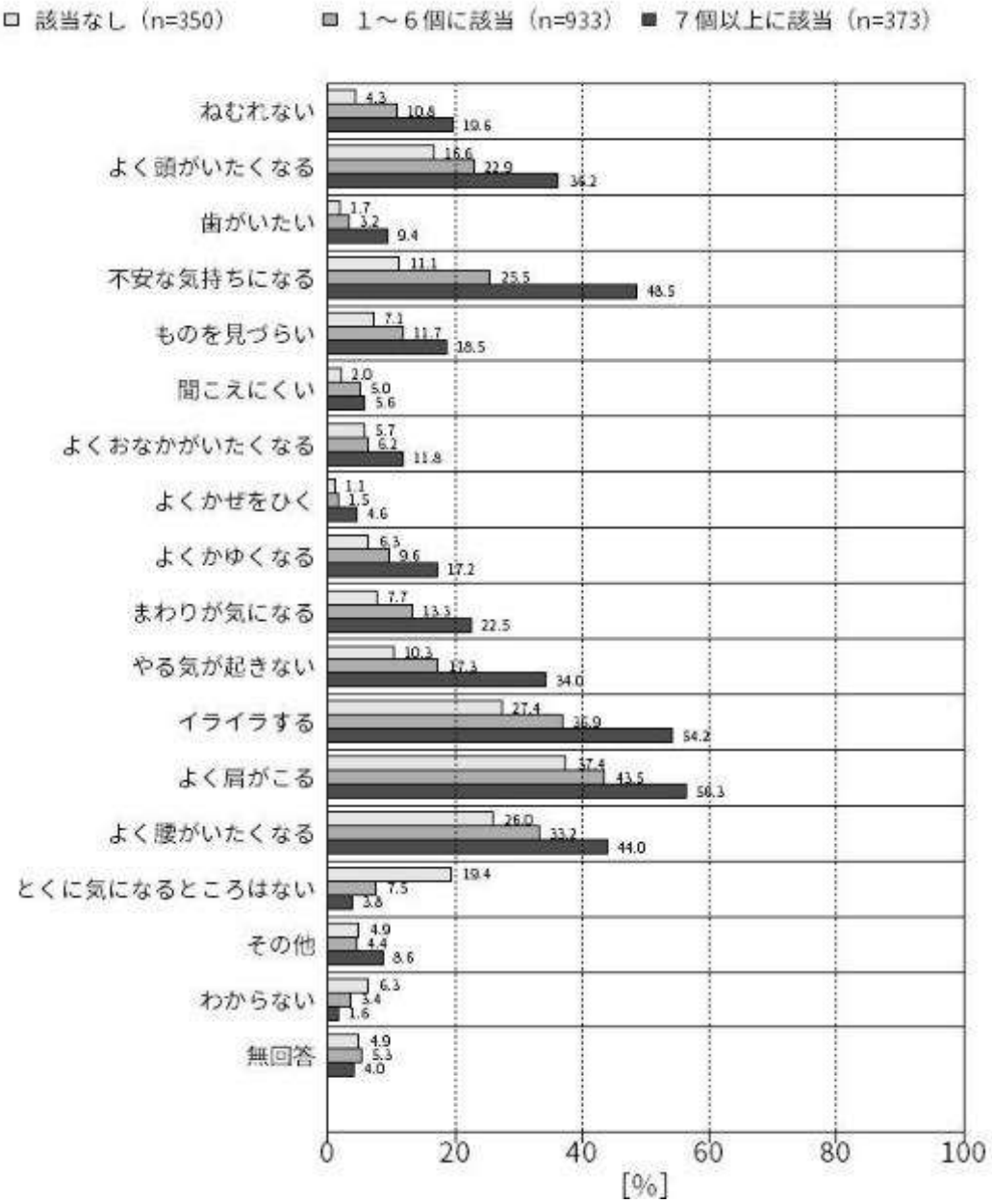
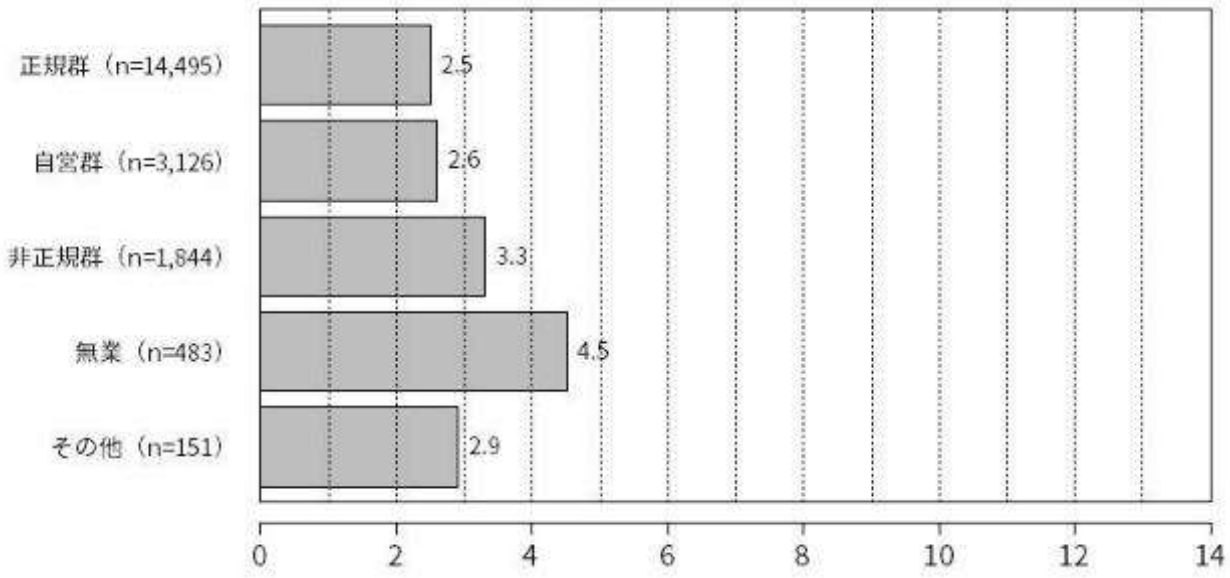


図 195. 経済的な理由による経験該当数別に見た、自分の体や気持ちで気になること

経済的な理由による経験の該当数別に自分の体や気持ちで気になることを見ると、「該当なし」と「７個以上に該当」と回答した人との差が大きい項目に着目しながら、「7 個以上該当」群の数値を挙げると、「歯がいたい」9.4%（「該当なし」に対し 5.5 倍）、「ねむれない」19.6%（4.6 倍）、「不安な気持ちになる」48.5%（4.4 倍）となっている。さらに、「該当なし」と上記の項目ほどの差はないものの、「７個以上に該当」と回答した人では、「イライラする」54.2%（2 倍）、「やる気が起きない」34%（3.3 倍）など、ここでも心理的・精神的状況を示す項目での割合の高さが示された。

就労状況別に見た、 自分の体や気持ちで気になることの該当個数（保護者票　問 26）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東淀川区＞

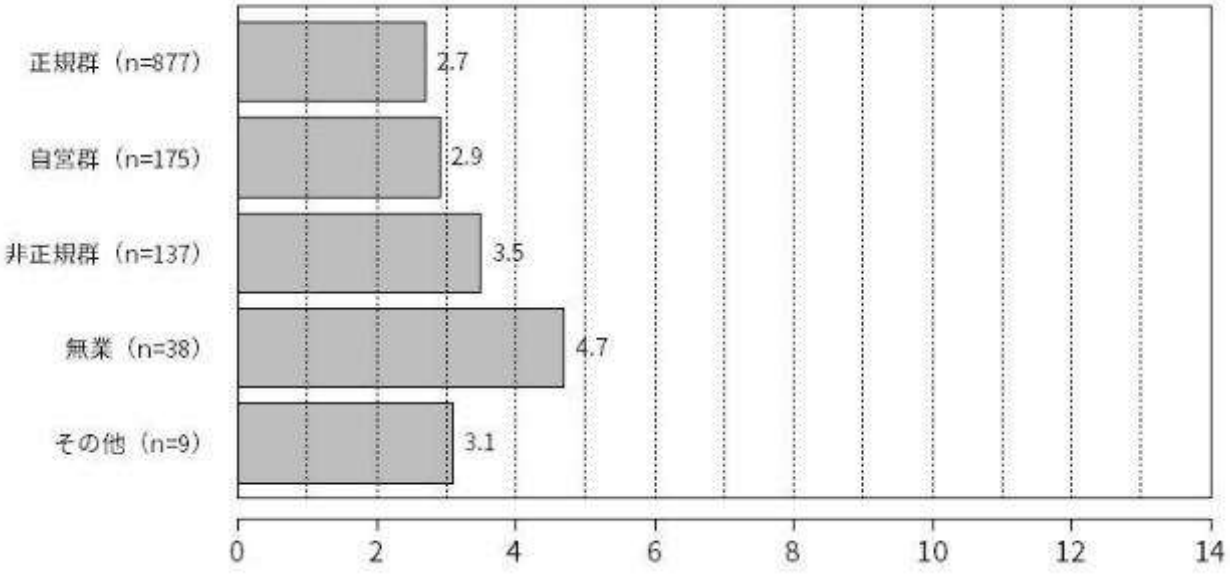


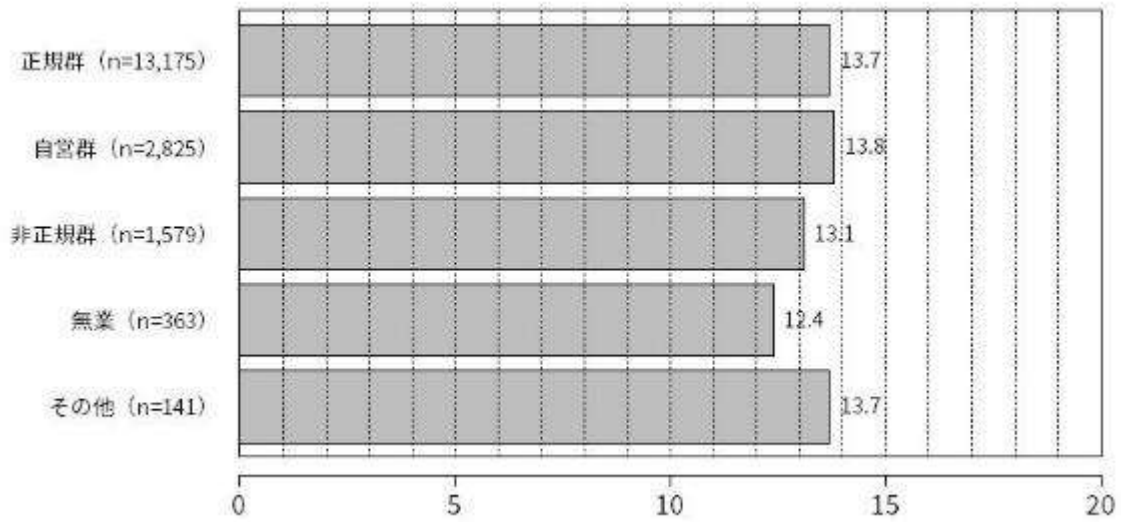
図 196. 就労状況別に見た、自分の体や気持ちで気になることの該当個数

就労状況別に自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、「正規群」では 2.7 個、「自営業」では 2.9 個、「非正規群」では 3.5 個、「無業」群では 4.7 個であった。

就労状況別に見た、 保護者のセルフ・エフィカシー（保護者票　問 29①～⑤）

※成田・下仲・中里他（1995）の特性的自己効力感尺度より「自分が立てた目標や計画はうまくできる自信がある」、「はじめはうまくいかない事でも、できるまでやり続ける」、「人の集まりの中では、うまくふるまえない」、「私は自分から友達を作るのがうまい」、「人生で起きる問題の多くは自分では解決できない」の 5 項目を抽出して使用した。それぞれの項目について、「そう思う」～「思わない」までの 4 段階で評価させ、5 項目の合計得点を大人のセルフ・エフィカシー得点とした。得点が高いほど、自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高いことを表す。

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東淀川区＞

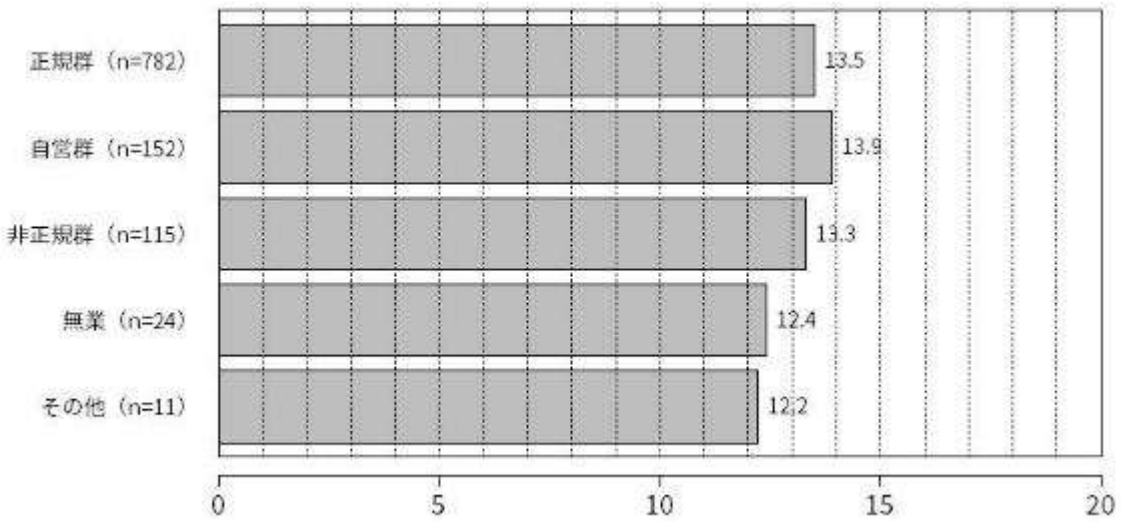


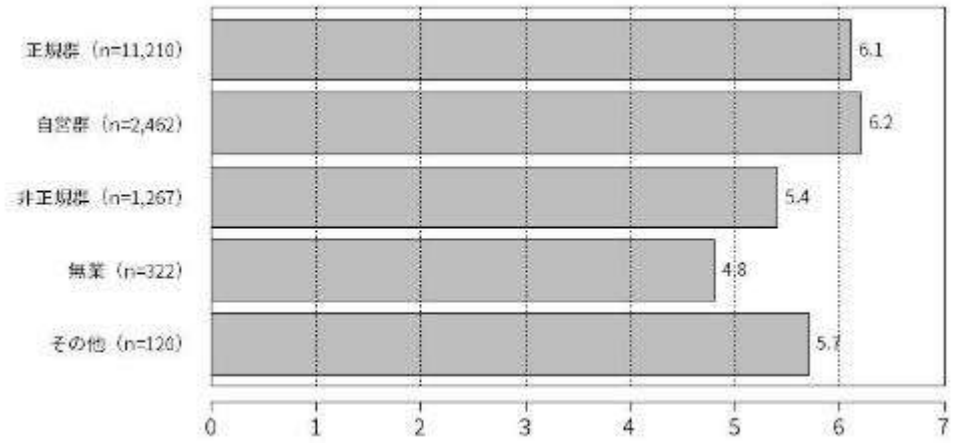
図 197. 就労状況別に見た、保護者のセルフ・エフィカシー

就労状況別に保護者の自己効力感（セルフ・エフィカシー）を見ると、「正規群」では 13.5 点、「自営業」では 13.9 点、「非正規群」では 13.3 点、「無業」群では 12.4 点であった。

就労状況別に見た、 支えてくれる人得点（保護者票　問 23①～⑦）

※「あなたを支え、手伝ってくれる人はいますか」という質問について、「心配ごとや悩みごとを親身になって聞いてくれる人」「あなたの気持ちを察して思いやってくれる人」「趣味や興味のあることを一緒に話して、気分転換させてくれる人」「子どもとの関わりについて、適切な助言をしてくれる人」「子どもの学びや遊びを豊かにする情報を教えてくれる人（運動や文化活動）」「子どもの体調が悪いとき、医療機関に連れて行ってくれる人」「留守を頼める人」の 7 項目を提示した。それぞれの人物が「いる」か「いない」かで評定させたうえで、「いない」を 0 点、「いる」を 1 点とし、7 項目の合計得点を「支えてくれる人得点」とした。得点が高いほど、身近に支えてくれる人が多く存在することを表す。

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東淀川区＞

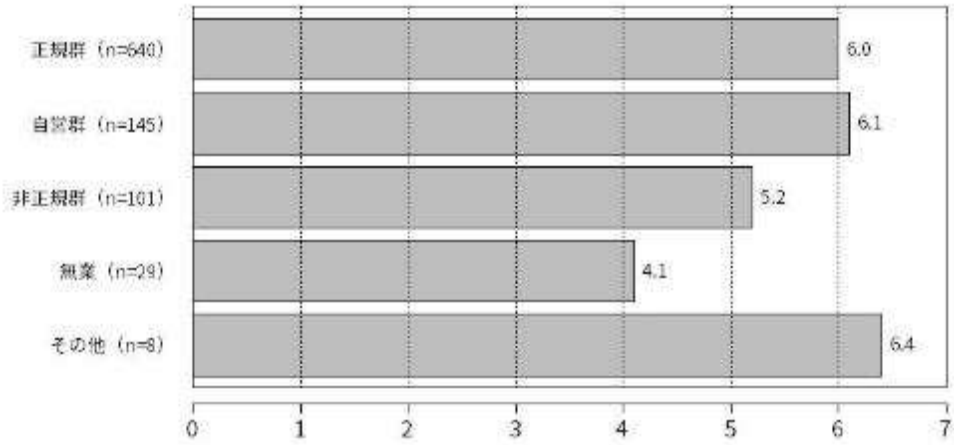
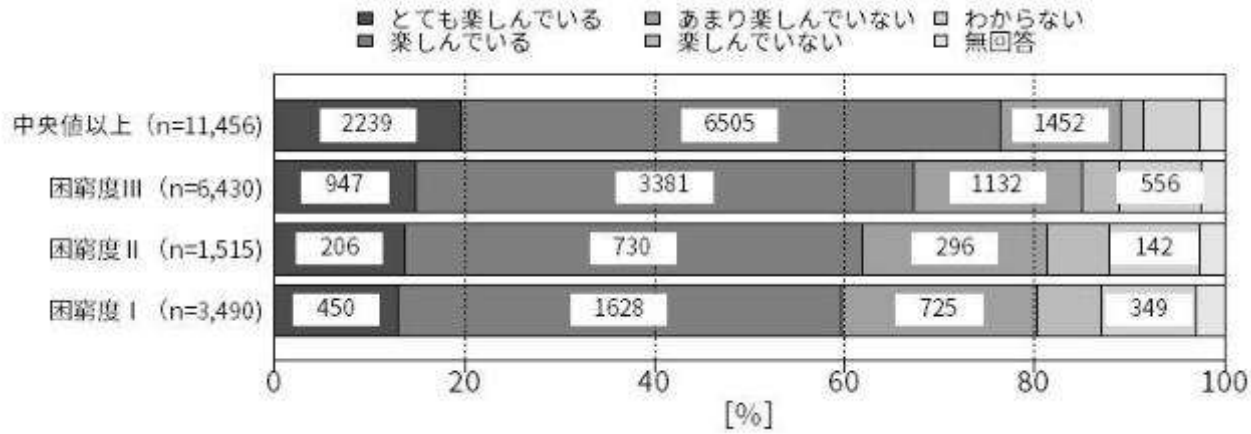


図 198. 就労状況別に見た、支えてくれる人得点

就労状況別に「支えてくれる人」の有無を得点化し、その平均値を見ると、「正規群」では 6.0 点、「自営群」では 6.1 点、「非正規群」で 5.2 点、「無業」で 4.1 点であった。

困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）（保護者票　問 25(1)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東淀川区＞

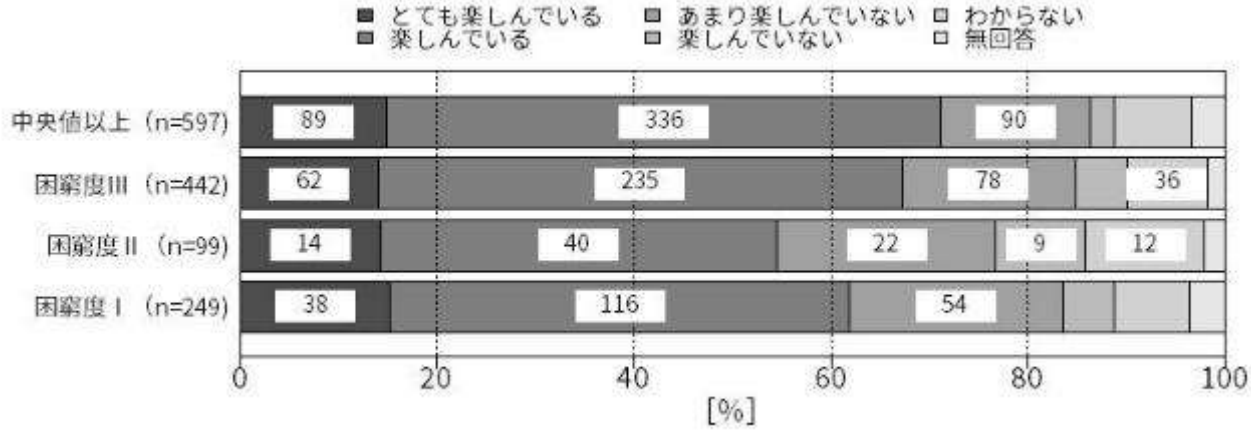
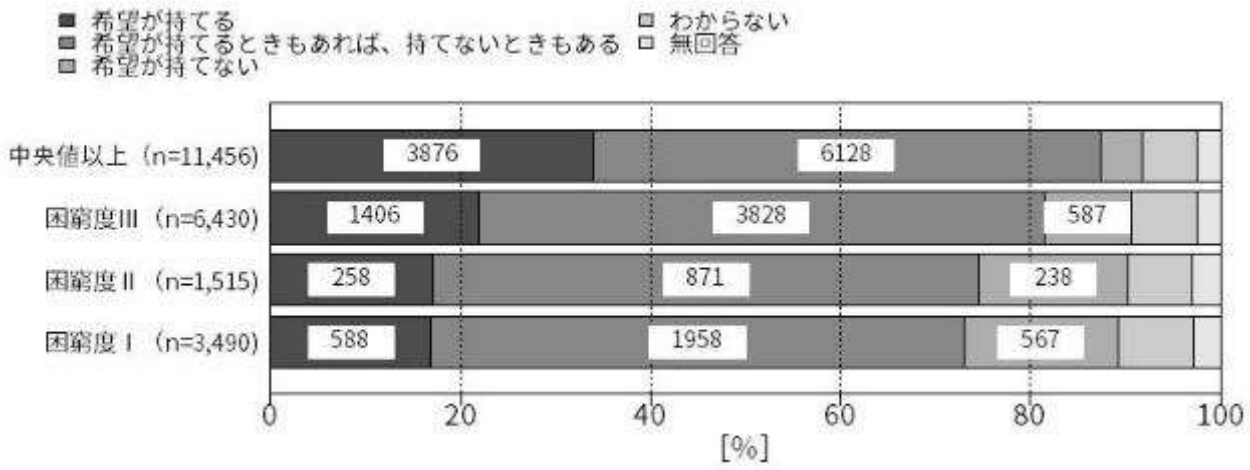


図 199. 困窮度別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）

困窮度別に生活を楽しんでいるかを見ると、「とても楽しんでいる」「楽しんでいる」をあわせた割合では、中央値以上群が 71.2% であり、困窮度が高まるにつれて、「とても楽しんでいる」と「楽しんでいる」の割合が低くなる傾向にあった。逆に、「楽しんでいない」と回答した割合は、中央値以上群で 2.5%、困窮度Ⅲ群で 5.2%、困窮度Ⅱ群で 9.1%、困窮度Ⅰ群で 5.2%となった。

困窮度別に見た、心の状態（将来への希望）（保護者票　問 25(2)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東淀川区＞

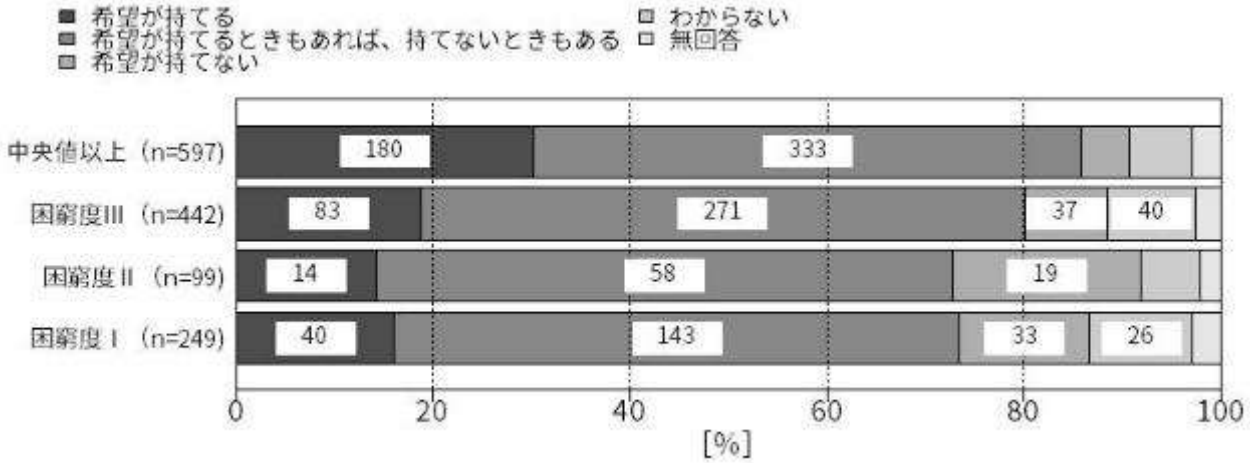
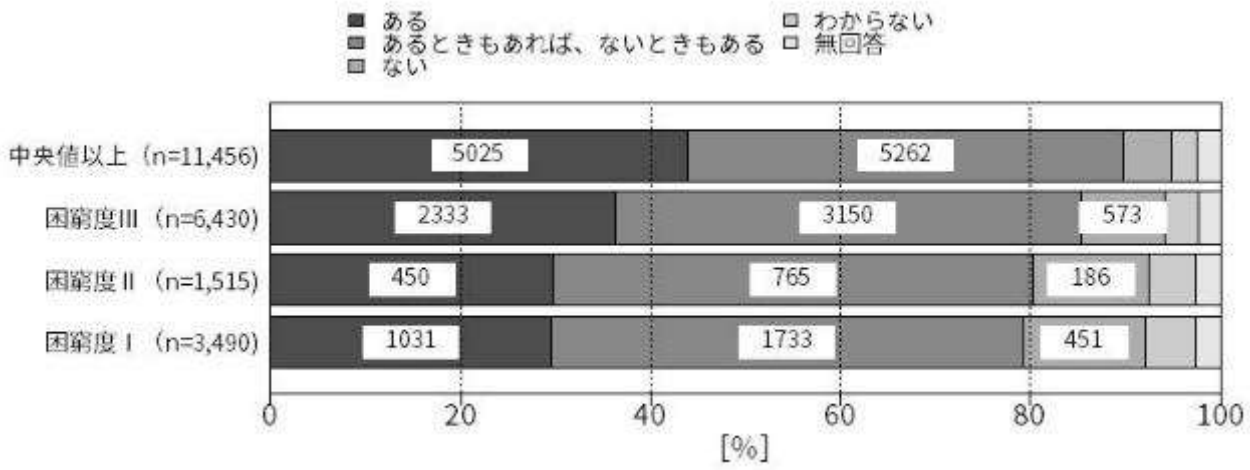


図 200. 困窮度別に見た、心の状態（将来への希望）

困窮度別に将来への希望を見ると、「希望が持てる」と回答する割合は中央値以上群では、30.2%であったのに対し、困窮度Ⅲ群では 18.8%、困窮度Ⅱ群では 14.1%、困窮度Ⅰ群では、16.1%という結果となった。

困窮度別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）（保護者票　問 25(3)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東淀川区＞

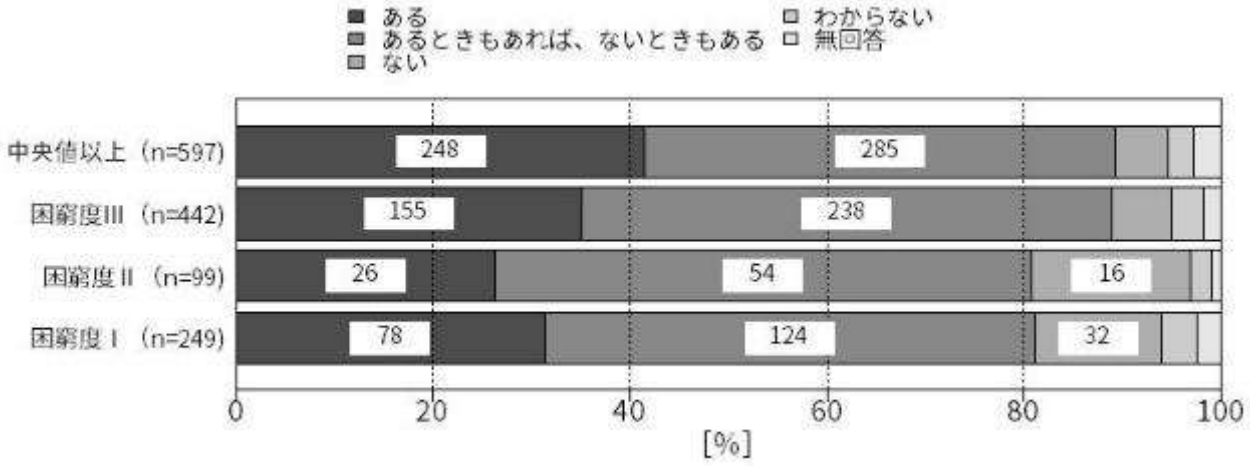
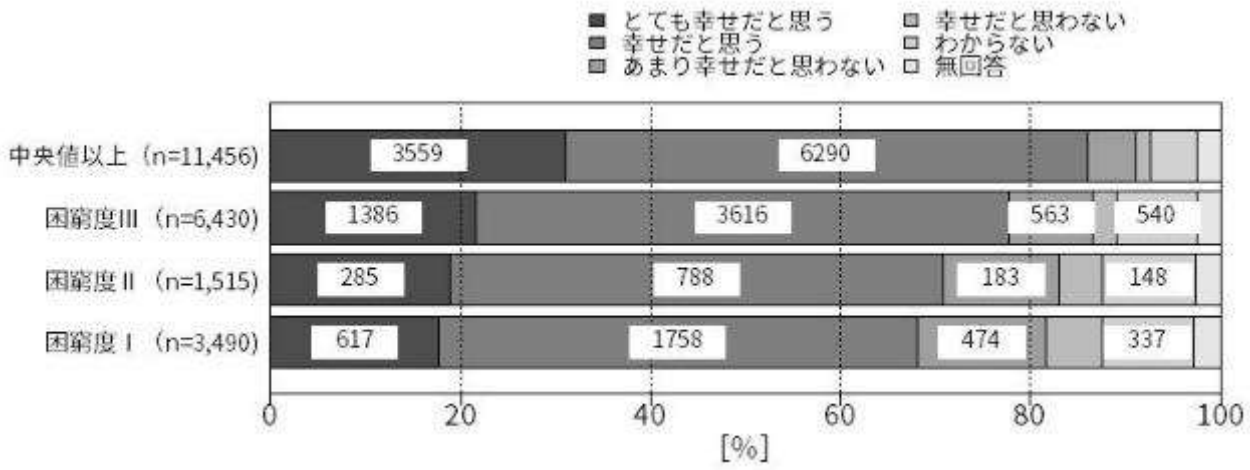


図 201．困窮度別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）

困窮度別にストレスを発散できるものについて、ストレスが発散できるものが「ない」という回答に着目すると、中央値以上群では 5.4 %、困窮度Ⅲ群 6.1 %、困窮度Ⅱ群 16.2 %、困窮度Ⅰ群 12.9 %となっている。

困窮度別に見た、心の状態（幸せだと思うか）（保護者票　問 25(4)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東淀川区＞

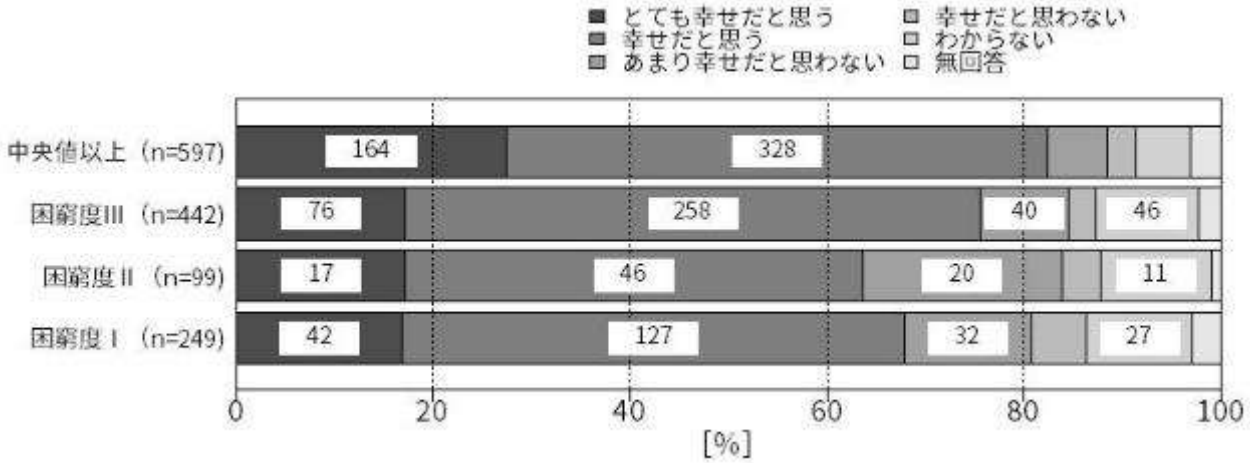
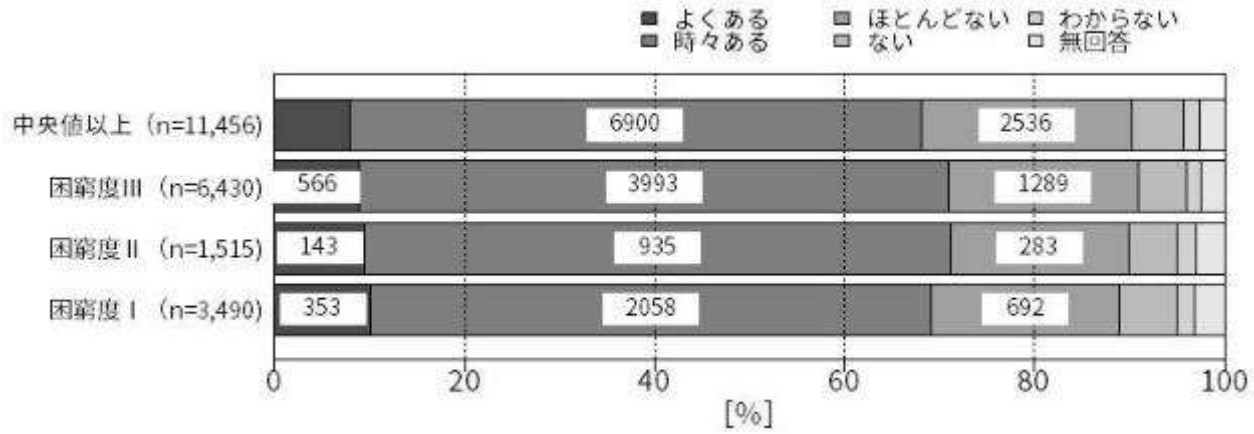


図 202. 困窮度別に見た、心の状態（幸せだと思うか）

困窮度別に幸せだと思うかを見ると、「とても幸せと思う」「幸せだと思う」あわせた割合は、困窮度が高まるにつれて低くなる傾向にある。逆に、「あまり幸せだと思わない」「幸せだと思わない」あわせた割合が高くなり、中央値以上群では 9 %、困窮度Ⅲ群 11.7 %、困窮度Ⅱ群 24.2 %、困窮度Ⅰ群 18.5 %となっている。

困窮度別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと
（保護者票　問 27）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東淀川区＞

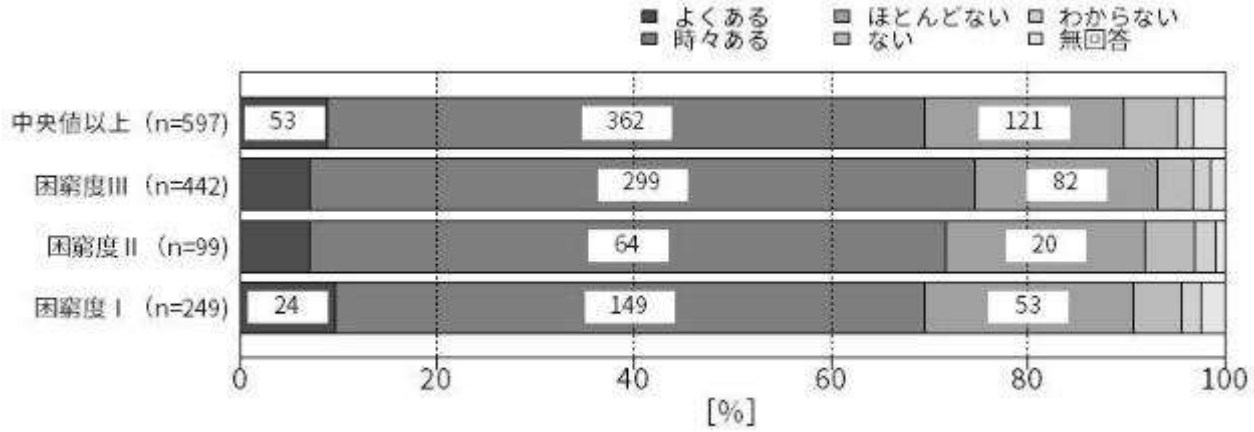
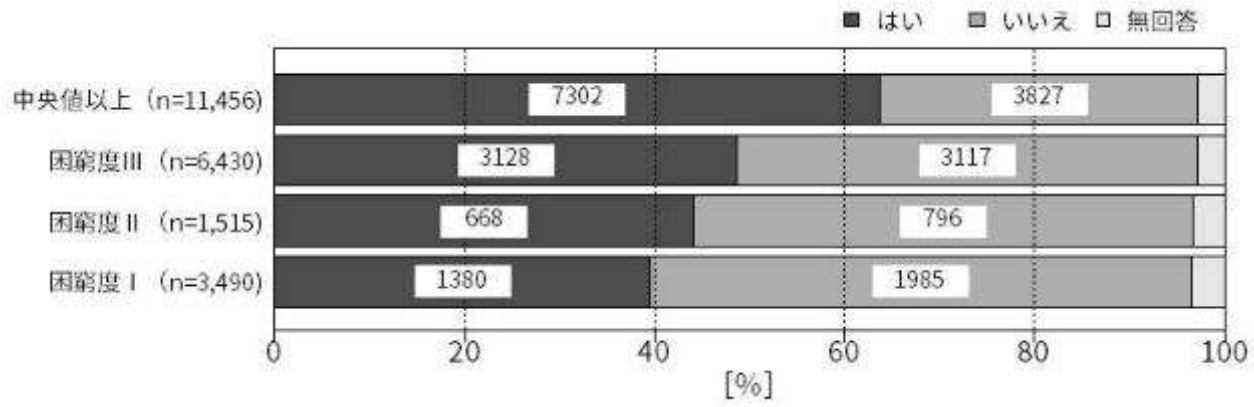


図 203. 困窮度別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと

困窮度別に不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうことを見ると、困窮度による大きな差は見られなかった。

困窮度別に見た、定期的な健康診断の受診（保護者票　問 28）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東淀川区＞

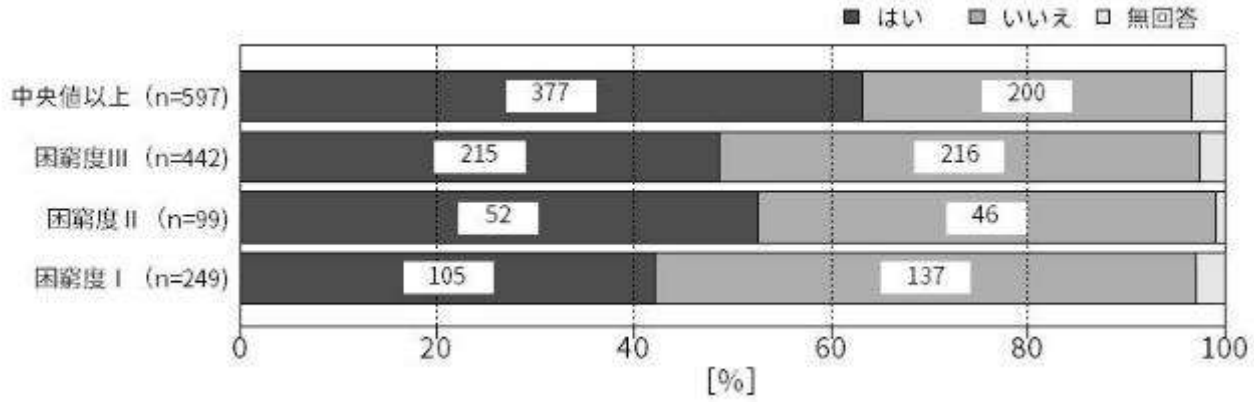
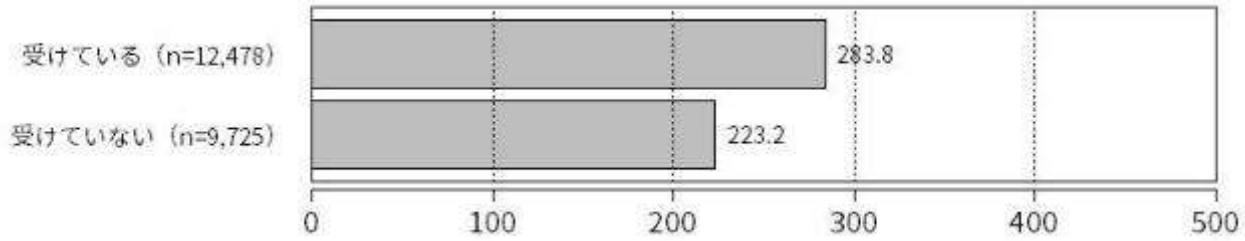


図 204. 困窮度別に見た、定期的な健康診断の受診

困窮度別に保護者の定期的な健康診断の受診を見ると、「受診あり」の回答の割合は中央値以上群が 63.1%であり、困窮度 I 群では 42.2%であった。

定期的な健康診断の受診別に見た、等価可処分所得の平均値（単位：万円）
（保護者票　問 28 × 保護者票　問 7）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東淀川区＞

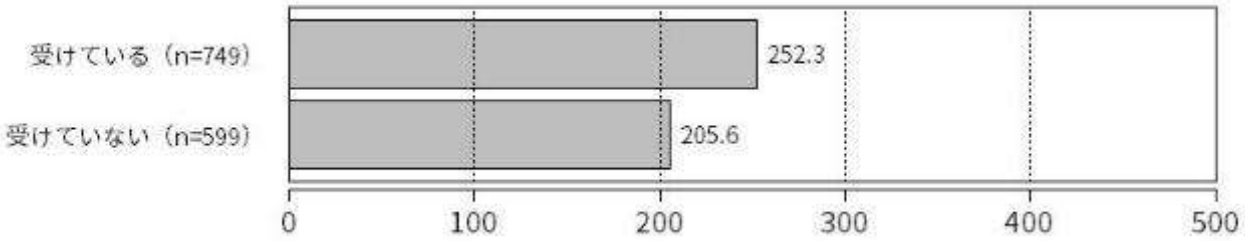


図 205. 定期的な健康診断の受診別に見た、等価可処分所得の平均値（単位：万円）

定期的な健康診断の受診別に等価の可処分所得額を算出すると、「受診あり」では 252.3 万円、「受診なし」では 205.6 万円と等価可処分所得について差が見られた。

＜健康に関する考察＞

困窮度別に朝食の頻度を見ると、困窮度が高くなるにつれ、「毎日またはほとんど毎日」朝食を食べる割合が低くなっている。困窮度Ⅰ群では、週に1度も朝食を「食べない」と回答した割合が2.0%となっている（大阪市全体3.6%）。

朝食の頻度別に保護者と子どもの関わり（子どもと会話）を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、子どもと「よく会話をする」との回答が64.0%であり、「週5回以下」では、「よく会話をする」と回答した人は49.0%と、「毎日またはほとんど毎日」の人のほうが「よく会話をする」の割合が高くなっている。

朝食の頻度別に子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）の得点を見ると、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人では、18.5点（大阪市18.7点）、「週5回以下」では、17.4点（大阪市17.2点）と、「毎日またはほとんど毎日」朝食をとっていると回答した人のほうが「週5回以下」の人よりも子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）が高い結果となった。

心身の自覚症状（子ども）については、困窮度によって大きな差は見られないが、困窮度Ⅰ群の数値を多い順に挙げると、「イライラする」24.2%（大阪市27.6%）、「やる気が起きない」20.6%（27.2%）、「よくかゆくなる」19.4%（大阪市20.6%）となっている。「やる気がおきない」、「イライラする」などは、困窮度Ⅰ群より困窮度Ⅱ群、Ⅲ群の値が上回っている。心理的・精神的症状を示す項目での割合の高さが広範な層で見られ、これらが学習状況に影響を与えていると推測される。

心身の自覚症状（保護者）を見ると、多くの項目において、困窮度が高まるにつれ、自分の体や気持ちで気になることのそれぞれの項目が高くなっている。特に困窮度Ⅰ群の数値を多い順に挙げると、「よく肩がこる」49.4%（47.1%）、「イライラする」44.6%（42.5%）、「よく腰がいたくなる」38.6%（36.4%）となっている。

生活を楽しんでいるか、将来への希望、ストレスを発散できるものかあるか、幸福度、を困窮度別に見ると、中央値以上群に対して、それ以外の群では、肯定的な回答の割合が低くなる傾向が見られた。

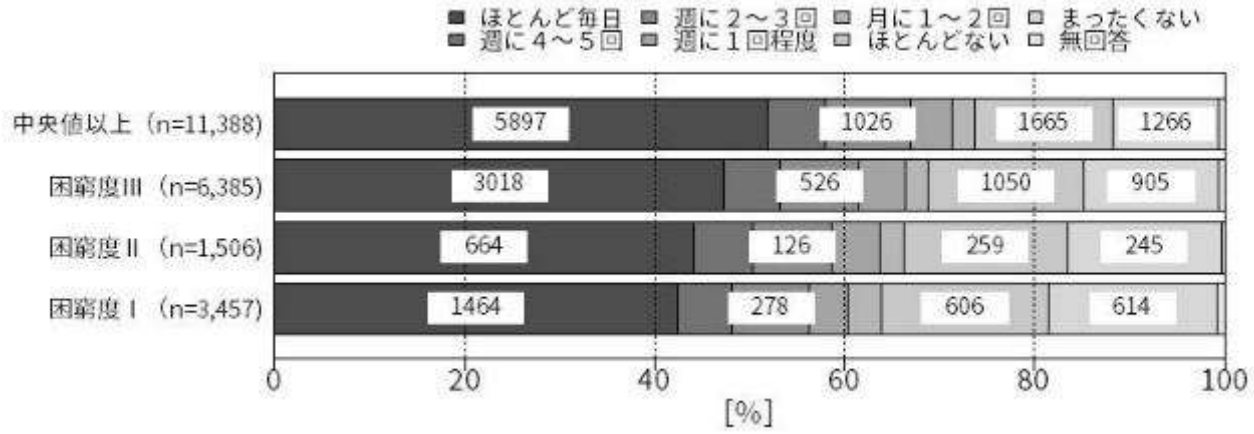
困窮度別に不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうことを見ると、困窮度による大きな差は見られないものの、中央値以上群では、「よくある」が8.9%であったのに対し、困窮度Ⅰ群では9.6%と困窮度Ⅰ群の割合が高くなった。

困窮度別に保護者の定期的な健康診断の受診を見ると、「受診あり」の回答の割合は中央値以上群が高く、困窮度Ⅰ群（42.2%、大阪市39.5%）が低くなっている。

３－４．家庭生活・学習

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と朝食を食べるか） （子ども票　問 10①）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東淀川区＞

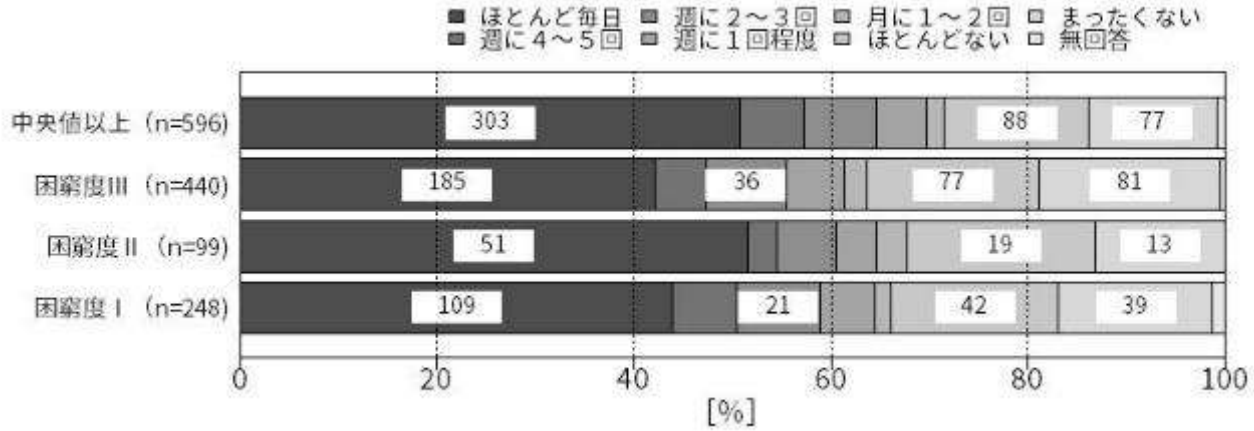
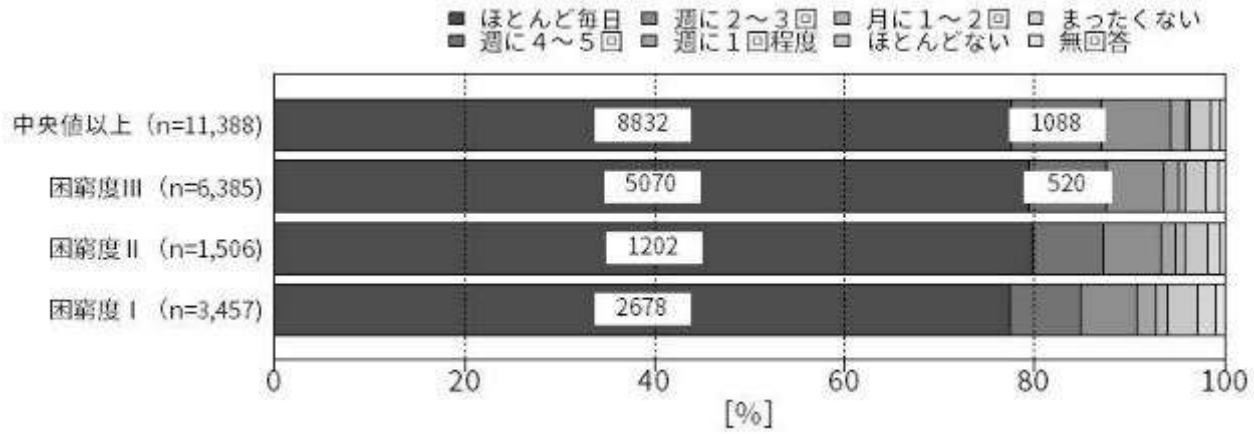


図 206. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と朝食を食べるか）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人と朝食を食べるか）を見ると、困窮度Ⅰ群では、「ほとんど毎日」と回答した割合が低く 44.0 %であった。

困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）
（子ども票　問 10②）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市東淀川区＞

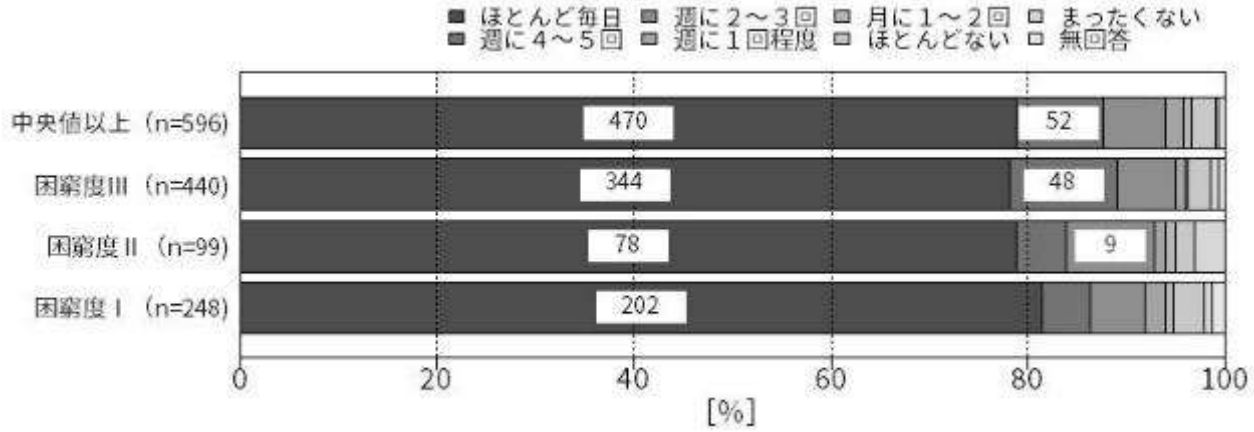


図 207. 困窮度別に見た、保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）

困窮度別に保護者と子どもの関わり（おうちの大人と夕食を食べるか）を見ると、大きな差は見られなかった。